

沖縄県平和祈念資料館展示更新監修委員会（第3回）議事概要

- 1 開催日時：令和6年12月3日（火）10:00～11:34
- 2 開催場所：平和祈念資料館 2階大会議室
- 3 出席委員：仲地博、宮城晴美、林博史、瀬戸隆博、古賀徳子、謝花直美、鳥山淳、里井洋一、新城俊昭、今理織、山城彰子、石堂徳一、宮良純一郎、山口剛史
事務局：沖縄県平和祈念資料館 館長 前川早由利、学芸班長 中山晋、主査 嶺井京子、主査 棚原和宏、主任 仲程勝哉、学芸員（臨任）川満彰、学芸員 大城航、学芸員 玉城優子
八重山平和祈念館（オンライン） 分館長 比嘉丞、主査 上原峻人、乃村工藝社 齊藤恵理、森誠一郎、上原裕、藤森功、溝口紘平、宮城あずさ、平良理紗

4 議題等

- (1) 新委員紹介並びに会長の選任について
- (2) 沖縄県平和祈念資料館及び八重山平和祈念館展示更新基本構想について
[資料3] [資料4]
- (3) 沖縄県平和祈念資料館及び八重山平和祈念館展示更新基本計画について
[資料5]

5 議事等

- (1) 新委員紹介並びに会長の選任について
 - ア 新しく仲地博委員が任命された。
 - イ 会長に仲地博委員が互選された。
- (2) 沖縄県平和祈念資料館及び八重山平和祈念館展示更新基本構想について
 - ア 事務局が資料3及び資料4の説明を行った。
 - イ 委員から次のような発言があった。
 - ・「平和の礎」に刻銘された方々には、家族があり、地域と結びついている。物語性のあるものを展示できないか。
 - ・「平和の礎」には、朝鮮半島出身の「慰安婦」の名前は刻銘されていない。その理由をどこかで説明してほしいと思っている。
 - ・3ページ15行目の「構造的暴力をも考えさせられてきた」の表現は、「直面させられてきた」という言葉が、より実情に近いのではないか。
 - ・現在の「展示むすびのことば」は、旧館のものであるため、「旧館展示むすびのことば」と表現するのが無難かと思う。
 - ウ 審議結果
 - ・3ページ15行目は、「構造的暴力に直面させられてきた」に改める。
 - ・「展示むすびのことば」に旧館を付け加える方法は事務局で検討する。
 - ・その他、表記の揺れの修正等については、事務局と仲地会長に一任する。

- ・ 今回で、監修委員会での基本構想についての検討は最後とする。
- (3) 沖縄県平和祈念資料館及び八重山平和祈念館展示更新基本計画について
- ア 事務局が資料5の説明を行った。
- イ 委員から次のような発言があった。
- ・ 「展示むすびのことば」には、「戦後」は含まれていない。よって、(沖縄戦の展示が終わり、戦後の展示が始まる前の)今の展示場所(4室と5室の間)が適当である。「戦後」が含まれるのであれば、新たな「展示むすびのことば」を作る必要があるのでは。
 - ・ 「展示むすびのことば」の理念の継承や、配置場所についてどう扱うかは全体の話であり、戦後時代部会だけで決められる話ではないと思っている。現在の「展示むすびのことば」を製作された方々の思いを引き継ぐことが大事。作成された経緯など、新聞記事等の資料も含め、調べたほうが良いと思う。
 - ・ 15ページの「解説ツールに係る更新」は、八重山平和祈念館にも入れたほうが良いのではないか。解説とかフォントは、本館と分館である程度統一した方がよいので、事務局から提案していただきたい。
 - ・ 15ページの「解説ツールに係る更新」について、障がい者や外国人等への配慮に係る説明があるが、踏み込んでアクセシビリティや人権みたいなものを入れられるといいと思う。
 - ・ 5ページ下段の図や6ページのゾーニングなどを基本計画のなかで決定することは難しいと思う。
 - ・ 展示の構成要素の入れ替えなどの変更はあり得るため、「部会の判断で、設計段階で変更があり得る」等の文言を入れてはどうか。
 - ・ 基本構想の項目は、常設展示室(2階)の後に、子ども・プロセス展示室の順になっているが、「平和の礎」との往還を目指すという視点から、子ども・プロセス展示室を最初の項目に上げるのはどうか。
 - ・ 具体的な計画が見えてきたら、設立理念とリニューアル内容との整合性が取れているかどうかを確認する時間を最後に設けてほしい。
- ウ 審議結果
- ・ ご意見を踏まえ、事務局で基本計画たたき台の作成を進める。

令和7年4月15日

知事公室 平和祈念資料館

【資料3】

事務局提案（令和6年12月3日現在）

沖縄県平和祈念資料館及び八重山平和祈念館
展示更新基本構想
（最終案（見え消し））

2024（令和6）年 月 日

沖縄県平和祈念資料館

目 次

第1章 沖縄県平和祈念資料館（本館）

1 展示更新の趣旨

- (1) 経緯…………… 1
- (2) 展示更新における基本方針…………… ~~2-3~~
- (3) 検討対象…………… ~~2-3~~

2 展示更新の内容

(1) 常設展示室（2階）

- ① 現状…………… 4
- ② 課題…………… 4
 - ア 利用状況を踏まえた対応力の強化…………… 4
 - イ子 展示手法の見直し…………… 4
 - ウイ 老朽化した設備の整備…………… 4
 - エウ 開館以降の歴史的事実の追加…………… ~~5-4~~
 - オエ 新たな調査・研究内容の反映…………… ~~5-4~~
 - カ 自分に引き寄せて考えることができる展示…………… 5
- ③ 展示更新の基本的な考え方…………… 5
 - ア 利用状況を踏まえた対応力の強化…………… 5
 - イ子 展示手法の見直し…………… 5
 - ウイ 老朽化した設備の整備…………… ~~6-5~~
 - エウ 開館以降の歴史的事実の追加…………… ~~6-5~~
 - オエ 新たな調査・研究内容の反映…………… ~~6-5~~
 - カ 自分に引き寄せて考えることができる展示…………… 6

(2) 子ども・プロセス展示室（1階）

- ① 現状…………… 6
- ② 課題…………… ~~7-6~~
 - ア 展示内容の見直し…………… ~~7-6~~
 - イ 展示手方法の見直し…………… ~~7-6~~
 - ウ 動線・空間利用の見直し
 - 企画展や地域交流の場など多目的スペースの拡充…………… ~~7-6~~
 - エ 平和学習の場としての機能充実…………… ~~7-6~~
- ③ 展示更新の基本的な考え方…………… ~~8-7~~
 - ア 展示内容の見直し…………… ~~8-7~~
 - イ 展示手方法の見直し…………… ~~8-7~~

1	ウ <u>動線・空間利用の見直し</u>	
2	企画展や地域交流の場など多目的スペースの拡充	8-7
3	エ 平和学習の場としての機能充実	9-8
4		
5	(3) 情報ライブラリー (1階)	
6	① 現状	9-8
7	② 課題	9-8
8	ア ライブラリー機能の充実	9-8
9	イ 証言映像の充実	9-8
10	ウ 学習の場としての機能の充実	10-9
11	エ 多様な来館者に配慮したサービスの向上	10-9
12	③ 展示更新の基本的な考え方	10-9
13	ア ライブラリー機能の充実	10-9
14	イ 証言映像の充実	10-9
15	ウ 学習の場としての機能の充実	11-9
16	エ 多様な来館者に配慮したサービスの向上	11-10
17		
18	第2章 八重山平和祈念館 (分館)	
19	1 展示更新の趣旨	
20	(1) 経緯	12-10
21	(2) 展示更新における基本方針	12-11
22	(3) 検討対象	13-11
23	2 展示更新の内容	
24	(1) 常設展示室 (第一展示室)	
25	① 現状	13-11
26	② 課題	13-11
27	ア 展示内容の追加、配置変更、整理	13-11
28	イ 展示物の修繕・更新等	14-12
29	ウ <u>証言資料を活用した展示の導入</u>	14
30	エ <u>展示・情報発信手法の見直し</u>	14
31	③ 展示更新の基本的な考え方	14-12
32	ア 展示内容の追加、配置変更、整理	14-12
33	イ 展示物の修繕・更新等	14-12
34	ウ <u>証言資料を活用した展示の導入</u>	15
35	エ <u>展示・情報発信手法の見直し</u>	15
36		
37	第3章 <u>本構想を踏まえた基本計画の策定</u>	
38	<u>基本計画の策定について</u>	16

第 1 章 沖縄県平和祈念資料館（本館）

1 展示更新の趣旨

（1）経緯

沖縄県立平和祈念資料館（以下、「旧資料館」という。）は、1975（昭和 50）年、県民の戦争体験を結集し、戦没者の追悼と沖縄戦の教訓を正しく次の世代に伝え、もって全世界の人々に恒久平和を訴えるため建設された。

旧資料館は、沖縄戦を通じ、住民の視点から戦争の非人間性と残忍性を告発した画期的な施設として重要な役割を果たしてきたが、施設面での狭隘・老朽化から、沖縄戦の実相~~すべて~~を展示することができず、平和事業活動や企画展示、資料収蔵等に支障が出る等の課題を抱えていた。

また、沖縄戦終結後も、27 年に及ぶ米国による統治や、日本祖国復帰後も残る広大な米軍基地の存在によって、沖縄は常に世界の戦場と隣り合わせの生活を強いられ、現在まで続く軍人、軍属による事件・事故、人権侵害や基地被害の現状と苦闘の中、人間の尊厳を踏みにじる「構造的暴力」をも考えさせられてきた。

沖縄戦から戦後に至るこの歴史的体験を通じ、つちかってきた“『沖縄のころ』”とは、人間の尊厳を何よりも重く見て、戦争につながる一切の行為を否定し、平和を求め、人間性の発露である文化をこよなく愛する心である。

戦争の犠牲になった多くの霊を弔い、沖縄戦の歴史的教訓を正しく次世代に伝え、全世界に“『沖縄のころ』”を発信し、もって世界の恒久平和の樹立に寄与する施設として、旧資料館を移転改築し、2000（平成 12）年、沖縄県平和祈念資料館（以下、「現資料館」という。）を建設した。開館前には、監修委員会の承諾を得ずに展示内容の変更を行う事態が発生したため、今回の展示更新にあたっては、監修委員会の議論を適宜公表するなど、透明性の確保を図るとともに、来館者や多くの県民の意見も取り込み展示内容を検討する。

現資料館は、旧資料館と比較し、延べ面積が約 10 倍、展示面積が約 5 倍に拡大し、旧資料館の沖縄戦の実相に関する展示に、戦前、戦後の沖縄の歴史を追加するとともに、子ども達が未来を展望するゾーンとして、子ども・プロセス展示室や情報ライブラリーなど、国際理解や環境問題、人権問題なども含めた平和発信・平和学習の機能も備えている。

しかしながら、開館から 25 年が経過し、経年による施設・設備の老朽化に加え、開館後の歴史的事実の追加や、『沖縄県史』等の沖縄戦に関する新たな調査・研究に基づく記述等を踏まえた説明文の見直し等、時代に即した展示内容の更新が必要になっている。

加えて、外国人や障がいのある方等、多様な来観者に配慮し、多言語化や展示手方法等の見直し、平和学習の場としてさらに活用してもらうための施設機能の充実が望まれる。

戦後 80 年を前に、広島平和記念資料館や長崎原爆資料館、ひめゆり平和祈念資料館など、県内外の平和博物館においては、戦禍の記憶を風化させず、次世代に継承するため、展示リニューアルに取り組んでいる。

1 本県においても、戦争体験者が約1割未満となり、戦争体験者なき時代に向かう現在
2 は、大きな分岐点にさしかかっており、近年の若者にとって、沖縄戦は遠い過去の歴史に
3 なりつつある。沖縄戦の実相と教訓を伝える平和発信拠点施設として、次世代に向け、自
4 分事として、我が身に置き換える「共感力」や、「危機感」をどう引き出せるかが大きな
5 課題となっている。

6 ガザ地区でのイスラエルとパレスチナの軍事衝突パレスチナ自治区ガザにおける紛争
7 や、ロシアによるウクライナ侵攻、台湾有事の懸念など国際情勢が不安定な昨今におい
8 ては、沖縄戦から時間が経過するほどに、平和発信拠点施設としての役割はますます重
9 要になっている。

10 これらの課題に対応し、世界の恒久平和の実現に寄与するためには、リニューアルを
11 通して、沖縄戦の記憶を風化させず、未来の若者達の心に響く展示内容について、模索
12 し、より一層、発信力のある平和祈念資料館に生まれ変わる必要がある。

13 現資料館の展示更新にあたっては、「設立理念」と「展示のむすびのことば」を継承し、
14 老朽化に対応した設備の整備と併せ、時代に即した展示更新を実施し、平和学習等の施
15 設機能の充実と、様々な事業活動が効果的に展開できる体制を整え、平和発信の拠点施
16 設として、より一層の発信力の強化を図る。

17 18 (2) 展示更新における基本方針

19 ①(1) 当館の「設立理念」と「展示のむすびのことば」を継承したの精神に沿った展示更新
20 とする。

21 ②(2) 誰一人取り残さない SDGs の理念に基づき多様な来館者に配慮した展示更新とす
22 る。

23 ③(3) 平和について学習する場の充実を目指した展示更新とする。

24 ④「平和の礎」との連携を意識した展示更新とする。

25 ⑤ 国内外の平和博物館及び関連施設との連携を目指した展示更新とする。

26 27 (3) 検討対象

28 展示更新は、原則、次以下の範囲を対象とし、具体的な規模、手法はコストと合わせ検
29 討する。

対 象

常設展示室（２階）

老朽化した設備を整備するとともに、多様な来観者に配慮した展示手方法や、開館後の歴史的事実、沖縄戦に関する新たな調査・研究を踏まえ、展示内容を更新する。

子ども・プロセス展示室（１階）

変化する国際情勢等に対応した展示や平和や人権などの課題を自分事化して考えることができる展示内容に更新するとともに、動線・空間利用の見直し、国際理解と平和の概念を広めるため、現代の国際情勢に合わせた展示内容に更新するとともに、展示方法、空間の活用方法を見直し、多目的スペースや平和学習の場としての機能を拡充する。

情報ライブラリー（１階）

情報発信機能や調査・研究機能の充実と、戦争体験者等の証言や平和学習の教材など、多様な情報を提供し、来館者が利用しやすいサービスの向上に繋げる。

全館共通（１・２階）

多様な来館者のニーズに対応した展示を目指すとともに、国内外への平和発信拠点施設としての機能の向上に繋げる。

内 容

■利用状況を踏まえた対応力の強化

■展示手法の見直し

■老朽化した設備の整備

■開館以降の歴史的事実の追加

■新たな調査・研究内容の反映

■自分に引き寄せて考えることができる展示

■展示内容の見直し

■展示手法の見直し

■動線・空間利用の見直し

■企画展や地域交流の場など多目的スペースの拡充

■平和学習の場としての機能充実

■ライブラリー機能の充実

■証言映像の充実

■学習の場としての機能の充実

■多様な来館者に配慮したサービスの向上

■読みやすいフォントの使用、判別しやすい色・背景の工夫や、段差がないフラットなエリアの整備 等

■国内外の平和博物館及び関連施設との連携

2 展示更新の内容

(1) 常設展示室（2階）

① 現状

常設展示室は、2000（平成 12）年の開館以来、展示更新は行われていない。がされておらず、第1室から第3室は歴史を踏まえた展示となっているが、

開館から現在までに『沖縄県史各論編 6 沖縄戦』をはじめ各種の新しい『「沖縄県史」』が発刊されるなど、沖縄戦と女性史を含む沖縄の近現代史に関するに関連した新たな調査・研究の成果が蓄積されており、第1室から第3室はそれらを踏まえて展示構成、説明文の見直し等が必要となっている。な箇所があり、

戦後の沖縄をテーマとする第5室においても同様に、新たな研究成果を反映させるとともに、米軍基地に関連する主な出来事（事件・事故など）や、近年の沖縄をめぐる軍事強化などについての展示・文言を見直し、開館以降に起きたの主な出来事も（事件・事故など）についての展示を追加する必要があるが生じているある。

展示設備についても、システムの経年劣化による故障や、展示説明文が見えづらくなっている箇所が見受けられ、修繕または取り替えが必要である。

また、第4室の証言集や証言映像についても、証言本の劣化や、近年増加する外国人来館者に対応するための外国語表標記やの不足、音声ガイダンス機器等の不足のほか、機器の故障なども出てきている。

② 課題

ア 利用状況を踏まえた対応力の強化

本施設には、県内外から多数の児童・生徒が平和学習に訪れるが、観覧時間に制限があるため、時間をかけて展示室を観覧することができず、通り過ぎる程度になってしまうケースも多く見られる。展示が、児童・生徒たちの興味・関心を引き出せていない、内容が難解すぎるとの指摘もあり、沖縄の近現代史に関する情報や知識をあまり持ち合わせていない児童・生徒への対応が課題となっている。

一方で、より広く・深く知りたいという専門性の高い学習ニーズにも対応することも求められており、双方のニーズにより的確に対応できる展示構成の見直しが課題となっている。

イ ア 展示手法の見直し

近年増加傾向にある外国人に対応した多言語解説標記の充実や、高齢者、様々な障がいのある方等の多様な来館者に配慮した展示手法の見直しが課題となっている。を見直すとともに、

また、仮想映像や疑似体験など、体験性を高める先端技術が可能となるような VR（Virtual Reality）の導入や、携帯端末のアプリによるガイダンス等、IT 技術を活用した効果的な展示手法を取り入れる模索する必要がある。

さらに、デッドスペースがいくつか見られ、空間やスペースを活用しきれていない状況があり、周囲のスペースと組み合わせ、動線、見学場所の改善を図る必要がある。

また、展示内容が膨大なことから、修学旅行生など、観覧時間に制限のある来館者においては、時間をかけて展示室を観覧することができず、通りすぎる程度になってしまいうケースも多い。

ウイ 老朽化した設備の整備

展示設備については、第2室のメイン展示は、スクリーンに映し出される米軍記録映像と、ジオラマ上に展開するレーザーポインターによる演出が連動して、「沖縄戦の戦闘経緯」を伝える仕組みとなっているが、システムの経年劣化でほとんど機能していない。

こうした状況をはじめ、各展示室において、修繕・取替が必要な設備が多く、解説パネルやキャプション米軍記録映像とジオラマで展示されている「沖縄戦の戦闘経緯」が、メインスクリーンと連動したレーザーポインタが戦闘経緯をジオラマ上に投影される仕組みとなっているが、システムの経年劣化でほとんど機能していない等、各展示室において、修繕・取替が必要な設備が多く、説明文についても、老朽化により見えづらくなっている箇所が見受けられ、設備の更新又は設備の新設が必要である。

エウ 開館以降の歴史的事実の追加

第5室においてはける、米軍基地から派生する事件・事故の説明文の見直しや、沖縄県の置かれた状況など、1998（平成10）年以降後の主な出来事として、その後の沖縄県の置かれた状況、事件・事故等について展示内容の追加が必要となっている。

一方、スペースが狭隘なため、テーマ及び展示内容の精選、展示構成の見直しが必要でを厳選する必要がある。

オエ 新たな調査・研究内容の反映

新しい『沖縄県史』が編纂されたことをはじめ、沖縄戦と女性史を含む沖縄の近現代史に関する調査・研究の成果が蓄積されている。こうした最新の研究成果を取り入れた展示内容に更新することが求められている。開館以降に蓄積された沖縄戦に関する調査・研究や、沖縄県史との整合性を踏まえて、説明文を見直すなど展示内容を更新する必要がある。

カ 自分に引き寄せて考えることができる展示

戦争体験者なき時代を迎えつつある今、若年層にとって「沖縄戦」は遠い過去の歴史になりつつある。戦争を身近に捉えることが難しくなっており、沖縄戦の実相や教訓を、他人事ではなく、自分に引き寄せて感じ・考えることができる展示の構築が、大きな課題となっている。

③ 展示更新の基本的な考え方

ア 利用状況を踏まえた対応力の強化

1 平和学習を目的に訪れる児童・生徒等は、観覧時間に制限があり、基礎的な情報 を
2 あまり持ち合わせていない。このような来館者に対応する上で、基礎的な内容を中心
3 に、短時間でもポイントを絞って効率的に観覧できる方法を整備するとともに、一方
4 では、より高度で専門性の高い内容を求め、深く考えようとする学習のニーズにも
5 確に対応できる展示と解説システムの構築を行う。

6 また、沖縄県内の来館者の関心に応えると同時に、県外からの来館者に、沖縄の問
7 題を自らの問題として理解し、考えることができるような内容・方法を検討する。
8

9 **イア 展示手法の見直し**

10 国内外に平和を発信する施設として、外国人に対応した多言語化標記を充実させ
11 るとともに、車椅子を利用する高齢者や様々な障がいのある方等が、観覧しやすいよ
12 う、展示ケースの側面をガラス張りに変更するなど、多様な来館者に配慮した展示手
13 方法の見直しを検討するが必要である。

14 また、来館者に沖縄戦の惨禍を、よりリアルに実感して体験してもらうため、3D
15 などの立体映像を活用した展示や、AR、VR、プロジェクションマッピングなどの先端
16 技術 VR (Virtual Reality) の導入、来館者の利便性向上のため、携帯端末のアプリ
17 によるガイダンス等、IT 技術の導入も含め、効果的な展示手法を検討する見直す必
18 要がある。

19 さらに、修学旅行生など、観覧時間に制限のある来館者に対しては、短時間でも、
20 ポイントを絞って、効率的に観覧できるような順路を用意するなどの配慮が必要で
21 ある。

22 **ウイ 老朽化した設備の整備**

23 経年劣化により故障等不具合のある展示設備については、取り替えまたは修繕す
24 るとともにことを基本とするが、旧式の展示設備については、先端的な展示設備の導
25 入も検討する現代における効果的な展示設備と比較検討の上、更新する必要がある。

26 また、老朽化して見えづらくなっている解説パネルや説明文についても、来館者が
27 読みやすい文字や色づかいを考慮しながら見やすいように更新するとともに、多様
28 な来館者に配慮した多言語化、展示手法掲示位置についても検討する必要がある。
29

30 **エウ 開館以降の歴史的事実の追加**

31 第5室における、1998（平成 10）年以降の主な出来事として、沖縄国際大学へ
32 の大型輸送ヘリ墜落事件や、女性への性暴力等の米軍基地から派生する事件・事故婦
33 女暴行事件、環境問題、今なお残る基地の現状や近年の軍事強化など、沖縄県の置か
34 れているた状況について、展示内容を追加する。必要があるが、

35 なお、新たな展示内容を追加するにあたっては、第5室のスペースが狭隘であるた
36 め、追加する展示内容と、効果的な空間の活用や展示構成、展示手
37 方法について見直
38 す検討する必要がある。

39 「変貌する世界情勢」や「未来への平和創造」、「国際連合」、「NGO」などの国際情

勢に関する展示については、1 階の子ども・プロセス展示室の展示内容と合わせて展示構成を検討する必要がある。

オエ 新たな調査・研究内容の反映

新しい『沖縄県史』をはじめ、沖縄戦と女性史を含む沖縄の近現代史に関する調査・研究の成果を踏まえ、新たな視点の導入、発信する情報の精査・更新、展示構成の見直し、解説文の更新など、最新の研究成果を取り入れた展示内容となるよう検討する。

開館以降に蓄積された沖縄戦に関する調査・研究や、沖縄県史との整合性を踏まえて、文章の表現や犠牲者等の正確な数値等について、説明文に反映させるなど、精度の高い展示内容に更新する必要がある。

カ 自分に引き寄せて考えることができる展示

来館者が、沖縄の近代から今日に至るまでの歩み、特に沖縄戦や基地問題を他人事ではなく、自分に引き寄せて感じ、そして考えることができる展示を目指し、研究成果に基づいた基礎的な事実を提示すると同時に、来館者に問いかけて、自ら考えることを促す効果的な展示手法を検討する。

また、本資料館と「平和の礎」との連携を意識した展示を検討する。

(2) 子ども・プロセス展示室（1 階）

① 現状

子ども・プロセス展示室は、グローバル化が進む社会情勢のもと、世界に向けて平和を発信するという当館の設立の目的から、未来を担う子ども達たちに、国際理解と平和の概念の普及を促進するとともに、平和を愛する心を育む場として設けられた。

しかしながら、展示されている世界各国の状況は開館当時のままであり、現在の国際情勢の内容にそぐわないものになっている。

また、展示されている各国のおもちゃなどについても、壊れて使えないものが多い。

② 課題

ア 展示内容の見直し

開館から 25 年が経過し、世界各国の状況、国際情勢はすでに変化しているものの、展示物は固定化されており、構造上の問題から、展示内容を更新できない状況にある。

また、現在展示されている世界各国の「遊び」は、今では「昔の遊び」になっており、壊れて使えないおもちゃも多い。

さらに、世界の戦争・紛争、国際理解、いじめなどの人権問題、地球環境問題について、知り、考え、意見を出すプロセスを実践するという展示室全体のコンセプトが理解しづらくなっている。

このため、変化していく国際情勢に対応し、更新可能な展示のあり方や、平和や人

権などの普遍的な課題について自分事として考えられるような、展示内容等について検討する必要がある。

展示物は、作り付けとなっていることから、国際社会の進展に合わせた展示内容の更新を定期的に行うことも困難であり、時代に即した「国際理解」を深めるという展示目的を果たすことができていないことから、展示内容や、展示方法、同展示室の活用のある方も含め検討が必要である。

イ 展示方法の見直し

展示物の構造上、予め作り付けて設置されているため、時代の変化に対応した展示内容に変更ができない。

このため、柔軟に展示物の更新が可能となるような展示方法の見直しが必要である。

ウ 動線・空間利用の見直し企画展や地域交流の場など多目的スペースの拡充

同展示室は入口・出口が明確でなく、順路もない。各展示が機能的に結びついていないこともあり、展示室全体のコンセプトがわかりづらくなっている。

1階部分の大きな面積（518㎡）を占めているが、展示物が時代に見合わないものが多くなっていることに加え、これらの固定的な展示物が前面に配置されている。

このため、子どものための特別企画展は、ミニ企画展などを催すための「ゆいまーる広場」にて開催しているがおり、スペースが狭隘であるだけでなく、展示室の奥側に位置し、来館者から見えづらく、うまく誘導できる配置にはなっていない。

また、「親子や友人同士で平和について語り合える場」であることもコンセプトにしているが、語り合える場が明確でないため、展示室全体の動線やスペースの利用方法効果的にスペースを活用するために、多目的スペースを前面に確保し、当館主催の特別企画展や、地域の交流の場等に提供するなど、様々なイベントに柔軟に活用してもらうことも検討する必要がある。

エ 平和学習の場としての機能充実

来館者が、過去の歴史と現代の課題を認識し、そこに存在する構造的な多様な暴力等の問題に意識を向け、正解のない問いと向き合い、それらを克服するための多様な選択の可能性があることを自ら認識できるよう導くためには、戦争が起こる背景や、その他の社会的な様々な問題について学習を深め、これらを自分事として捉え、主体的に平和創造の担い手となる人材を育む学びの場とする必要がある。

2階の常設展示室での内容と、1階の展示室の内容を、過去と未来と位置づけ、多角的な視野から、過去の歴史を学習することの重要性や、これらを通して、現在の国際情勢についても理解を深め、共感力を引き出し、1階と2階の展示室、「平和の礎」を往還する学びの空間を独立した展示として捉えるのではなく、相互に関連付けられた事象であることを一学習できる場としての機能を充実させる必要がある。

③ 展示更新の基本的な考え方

ア 展示内容の見直し

本展示室の立地条件を生かし、より「平和の礎」との結びつきを意識するような展示内容を検討する。

例えば、「平和の礎」の刻銘者の家族、あるいは刻銘者と関わりのある人々を取り上げることで、展示と「平和の礎」を往還する学びの空間と捉える。

そして、戦争の犠牲者が名前を持った“自分と同じ一人の人間である”こと、自分と近い年齢の人がいたことなど、自分事として戦争を追体験できるような構成にすることが考えられる。

その際、「平和の礎」が、世界の恒久平和を願い、一人一人の生命と平和を何よりも大切に“沖縄のこころ”の象徴であることから、国籍や軍人、民間人の区別なく、沖縄戦などで亡くなられたすべての戦没者が刻銘対象となっており、個々人それぞれに多様な戦争体験があったことに留意する。

同展示室では、戦争やいじめなどの人権問題、環境問題など、世界で起こっている出来事と身近な問題をテーマに取り上げ、未来を担う子ども達に、どうしたら解決できるのか考えてもらうコーナーであるが、「国際理解」を深めるという展示目的を達成するためには、テーマ毎に、時代に見合った最新の情報を提供できるよう、展示内容を見直すとともに、メリハリをつけた展示構成、観覧動線の工夫が必要である。

また、2階の常設展示に加えて、これを補完する企画展を開催し、「学徒動員」や「学童疎開」などの、特定のテーマに焦点を置き、沖縄戦に関する事項をより深く掘り下げるなど、別の視点で紹介する展示を通して、再来館の動機付けにもつながるような工夫も必要である。

イ 展示方法の見直し

予め作り付けて設置されているという展示物の構造上、予め作り付けて設置されているため、時代の変化に対応した展示内容の更新ができないため、サインージ式の展示手法を導入するなど、柔軟に展示内容の取り替え等が可能となるような展示方法へ移行する必要がある。

デジタルディスプレイを導入するなど、柔軟に展示内容の更新が可能となるような展示手法を検討する。

沖縄戦の教訓や、沖縄戦の歴史的事実に関しては常設的な展示にすることや、テーマによって展示のあり方を変えるなど、展示手法について柔軟に検討する。

また、来館者の興味・関心を引き出し、積極的に展示を見学してもらうために、先端技術を導入するなど、より効果的な展示手法のあり方も検討する。

子ども、高齢者、障がいのある方、あるいは海外から来た人や海外にルーツを持つ人、日本語を母語としない人など、多様な来館者が理解できるように、「やさしい日本語」の使用、音声での解説、多言語化、ビジュアル資料の多様など展示表現についても検討する。

また、広島平和記念館やカンボジア地雷対策支援センターなど、類似施設との連携

を強化し、国内外の平和博物館から資料を提供してもらうことにより、原爆や地雷に関する展示コーナー設けるなど、展示内容を適宜、柔軟に更新することが可能となるよう、展示方法を見直す必要がある。

ウ 動線・空間利用の見直し企画展や地域交流の場など多目的スペースの拡充

「平和の礎」と関連した、沖縄戦を体験した人々に関する展示、沖縄戦の事例から戦争・人権問題などの世界的・現代的な課題を考える展示と、動線を明確にすることで展示室全体のコンセプトについて理解しやすくなるように工夫する。

それに加えて、情報ライブラリーに誘導するような動線や、情報ライブラリーにある図書を案内するなど、情報ライブラリーとの連携が強まるような工夫も必要である。

また、来館者と展示、あるいは来館者同士が平和について語り合える空間となるように、学び合いができるようなスペースを設けるなど、空間の利用方法についても検討する。

同展示室は施設の大きな面積を占めているが、故障した展示物や時代に見合わない展示物が全面に配置されている等、観覧者の動線に配慮されたものとなっていない。

また、効果的に空間を活用するためには、多目的スペースを全面に確保し、特別企画展を随時開催できるようにするほか、ボランティア団体の活動や平和に関連する個人等の企画展など、地域に交流の場を提供し、様々なイベントの開催に供するなど、外部の活力も取り込み、相乗的な館の平和発信力の強化につなげることが望ましい。

よって、様々な活用方法を想定し、柔軟に対応出来る空間となるよう検討する必要がある。

エ 平和学習の場としての機能充実

来館者が、2階の常設展示室を観覧後、1階にて、実弾等に触れられるスペースを確保することによって、沖縄戦についてより理解が深められ、視覚障がいのある方でも触れることにより、戦争の恐ろしさを体感することができる。

また、「平和の礎」刻銘者に関する展示や、例えば2024(令和6)年現在で言うと、パレスチナ自治区ガザでの紛争やウクライナ情勢など「今」、世界で起こっている出来事を1階展示室で観覧後、2階の常設展示室における沖縄戦の実相をより詳しく学ぶことにより、来館者が過去の歴史を学習しつつ、現在の世界的な課題国際情勢についても理解を深め、過去と未来を関連付け、身近に起こり得る危機について、自分事として考え主体性を持って、今、何ができるのかを学習する場となるようにする必要がある。

さらにまた、再来館を促せるよう、身近な時宜を得たテーマを取り上げ常時展示することにより、1階と2階の展示室を、交互に行き来したくなるような学習の場としての仕掛け作りと、学習の場としてのコンテンツの充実するよう検討するなど、機

能を強化する必要がある。

(3) 情報ライブラリー（1階）

① 現状

情報ライブラリーでは、数多くの図書・雑誌を閲覧できるほか、AV（Audio/Visual）ブースでは戦争体験者の証言映像等も見ることが出来るが、経年劣化による故障により、映像等が視聴できない機器も多い。

また、1階の子ども・プロセス展示室の右隣奥側にあり、来館者の目に留まりにくく、利用者が少ない状況にある。

② 課題

ア ライブラリー機能の充実

平和学習や調査研究活動を支援するため、沖縄戦や平和に関する書籍のさらなる充実を目指すとともに、利用者の利便性の向上のため、利用しやすい書架や学習スペース等の配置の工夫や、一部図書の貸し出しについて検討する必要がある。

イ 証言映像の充実

2階常設展示室の第4室においては、戦争体験者の証言集や証言映像を多数展示しているが、個々の来館者の観覧時間の制約により、時間をかけて証言を視聴することが難しい状況にある。

このため、1階の情報ライブラリーにおいて、第4室と同様、証言映像コーナーを設置し、時間をかけて無料で視聴できるようにしているが、老朽化による映像機器の故障が多く見られ、設備の更新整備が必要である。

また、2020（令和2）年度から取り組んでいる、「戦後の戦争体験者証言」、2022（令和4）年度に収録した「米国統治下時代の証言」についても、追加して視聴出来るようにする必要がある。

さらに、戦後79年が経過し、当時の暮らしや慣習を知らない人が多いため、証言映像は字幕の追加に加え、証言に出てくる用語の解説や、場所を示した地図などを追加する必要がある。

ウ 学習の場としての機能の充実

学生等が、常設展示の理解を深めるため、資料館で作成したワークシートやクイズコーナーを活用して学習したり、学校教諭や平和ガイドなどが、平和学習のために必要な教材や資料を入手したり、平和学習を進めるためのノウハウなどを相談しやすい環境づくりが必要であることを整備することが望ましい。

また、来館者が気軽に立ち寄り、ゆっくりと腰をかけ、研究や学習に集中できるような空間づくりが必要である。

エ 多様な来館者に配慮したサービスの向上

子どもをターゲットにした子ども・プロセス展示室の右奥側に隣接したスペースに位置しているため、高齢者や車椅子利用者等、多様な来館者が利用しやすい動線配置とはなっていない。

子どもだけでなく、高齢者も含め、車椅子利用者やベビーカーの利用者、視聴覚に障がいのある方々にとっても利用しやすく、幅広い年齢層の利用者のニーズに対応できる情報発信が可能な施設となるよう整備する必要がある。

② 展示更新の基本的な考え方

ア ライブラリー機能の充実

平和学習や調査研究活動を支援するため、幅広い年齢層の多様な来館者のニーズに対応できるよう、沖縄戦や平和に関する書籍のより一層のさらなる充実を目指すとともに、来館者の利便性向上のため、一部図書の貸し出しについて検討する必要がある。

また、再来館につながられるように観覧動線を考慮し、利用しやすい書架や学習スペース等の配置などを、再来館につながられるように総合的に比較し、検討して決定する。

イ 証言映像の充実

2階常設展示室の第4室における、戦争体験者の証言集や証言映像が、無料で、時間をかけて視聴できるよう、1階の情報ライブラリーにおける、証言映像コーナーの映像機器の更新やを整備し、さらに機器を増設するなどを検討する、充実させる必要がある。

また、2020（令和2）年度に収録した「戦後の戦争体験者証言」、2022（令和4）年度に収録した「米軍統治下時代の証言」についても、視聴可能となるよう追加を検討し、日本語を母語としない人でも視聴可能となるよう多言語化への対応も検討する。

加えて、字幕や証言に出てくる用語の解説、場所を示した地図などの追加も検討する必要がある。

併せて、外国人でも視聴可能となるよう多言語化にも取り組む必要がある。

ウ 学習の場としての機能の充実

学生等が、常設展示の理解を深めるため、資料館で作成したワークシートやクイズコーナーを活用し学習したり、学校教諭や平和ガイドなどが、平和学習のために必要な教材や資料を入手したり、平和学習を進めるためのノウハウなどを相談しやすい環境づくりを検討する必要がある。

また、来館者が気軽に利用できるような動線の工夫と、ゆっくりと腰をかけ、研究や学習に集中できるような空間づくりを検討する必要がある。

エ 多様な来館者に配慮したサービスの向上

1 子どもだけでなく、幅広い年齢層の利用者を誘導するための動線の配置について
2 検討するとともに、外国人向けの多言語サービスや、障~~が~~い害のある方などの利用者
3 の多様なニーズに対応~~し、~~し、~~できる~~情報発信が可能となるよう、様々なサービス~~の~~を向
4 上~~を~~を目指し、させるよう検討する必要がある。
5

第2章 八重山平和祈念館（分館）

1 展示更新の趣旨

（1）経緯

八重山平和祈念館は、平成8年度に国庫予算において「マラリア慰藉事業経費」として認められた3億円に係る事業の一ひとつとして設立した、平成9年3月に完成した建物である。

沖縄戦末期、八重山諸島では日本軍による命令でマラリア有病地帯に疎開させられ、3千余名の尊い命が失われた。米軍との地上戦もない中で、多くの住民が強制疎開させられ犠牲となった沖縄戦の実相を「戦争マラリア」と呼ぶ。これらの犠牲を含めて、沖縄県は、1973（昭和48）年から沖縄戦被災者補償を国に要請していた。

他方、「戦争マラリア」で亡くなった住民の遺族らは、1989（平成元）年に「沖縄戦強制疎開マラリア犠牲者援護会」を結成し、政府に対し「戦時中の八重山地域におけるマラリア犠牲者国家補償に関する陳情書」を提出した。

1995（平成7）年、政府による戦後50年問題プロジェクトチームは、「マラリア問題は重要な検討項目」と位置付け、日本軍による疎開命令によって戦没したという特異性を重く受け止め、1999（平成11）年に八重山地域を対象とする慰藉事業の一つとして八重山平和祈念館が設立され、沖縄県平和祈念資料館の分館として位置付けられた。

八重山平和祈念館は、沖縄戦や「戦争マラリア」の実相を後世に正しく伝えるとともに、人間の尊厳が保障される社会の構築と、世界に向けて恒久平和の実現を訴える「平和の発信拠点」という基本理念を掲げている。開館以降、八重山の地域の人々や修学旅行生をはじめ、県内外から延べ12万6千人を超える人々の来館があり、八重山地域における「戦争マラリア」の実態を中心に、戦争による悲劇の記憶や平和への思いを次世代へとつなげている。

しかし、展示の大半が「戦争マラリア」に焦点を当てたものとなっていることに対して、沖縄県平和祈念資料館運営協議会八重山部会委員から、「沖縄戦に至るまでの経緯の説明がない」、「マラリア防遏以外の戦後復興についても展示が必要では」などといった指摘を受けているが、これまで、この課題への議論・検討を進められていない。

また、沖縄県平和祈念資料館の分館として、本館の理念に示された「人間の尊厳を何よりも重くみる」「戦争につながる一切の行為を否定」「平和を求める」「人間性の発露である文化をこよなく愛する心」という“沖縄のこころ”を踏まえた、より広い視野から展示内容を見直すべきとの指摘も上がっている。

マラリア慰藉事業については、平成元年5月28日に遺族らが「沖縄戦強制疎開マラリア犠牲者援護会」を結成し、国家補償を求めて活動を開始した。

マラリア犠牲者援護会は、平成4年2月16日に国に対して「戦時中の八重山地域におけるマラリア犠牲者国家補償に関する陳情書」を提出した。

これらの要請活動を受けて、政府は与党3党による戦後50年問題プロジェクトチームが「マラリア問題は重要な検討項目」と位置づけ検討を開始した。

平成7年4月には、与党50年問題プロジェクトでは、その特異性に鑑み基金を設け、

八重山地域を対象とする慰藉事業を実施することで合意した。

同年12月には、平成8年度国庫予算において、マラリア慰藉事業として総額3億円が認められ、平成9年3月31日には、「八重山平和祈念館」が竣工した。

八重山平和祈念館の展示制作については、「戦争マラリア」の実相を後世に正しく伝えるとともに、人間の尊厳が保障される社会の構築と、八重山地域から世界に向けて恒久平和の実現を訴える「平和の発信拠点」の形成を目指すことを基本理念とし、平成11年5月28日開館した。

八重山平和祈念館では、開館以降、八重山の地域の方々や修学旅行生をはじめ、県内外から延べ12万6千人を超える多くの方々の観覧があり、八重山地域における戦争マラリアの悲劇を中心に、戦争による悲劇の記憶や平和への思いの次世代への継承を図っている。

しかし、これまで沖縄県平和祈念資料館運営協議会八重山部会委員から「戦争に至る（巻き込まれる）までの経緯の説明がない」、「八重山の戦後史について、マラリア防遏以外の展示がなく不十分では」などといった指摘を受けているが、いまだこの課題への議論・検討を進められていない。

また、開館から26年が経過し、経年により一部展示物の劣化が進み、解説パネルの文字が読みにくい等の状況も生じており、展示物の修繕も課題となっている。修繕を行う必要がある。

今回の展示更新に当たっては、展示内容の整理・更新を行うとともに、劣化した展示物の修繕等を行い、平和を発信する拠点施設として展示内容のより一層うことにより、基本理念を達成するための展示内容の充実を図る。

※「戦争マラリア」とは、大戦末期の昭和20（1945）年、八重山諸島の住民がマラリアの無病地帯から有病地帯に避難を強いられたことによりマラリアに罹患し、そのうち、3,647名の尊い命が犠牲となった出来事。

（2）展示更新における基本方針

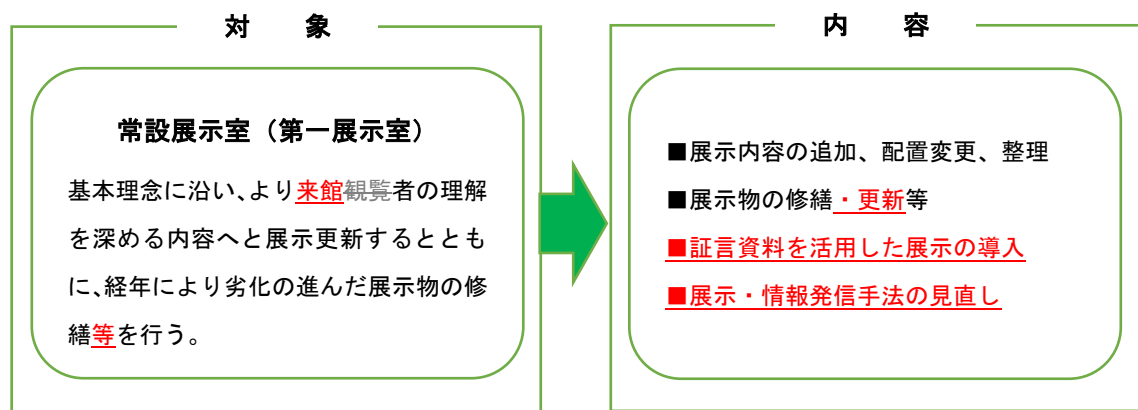
① 八重山平和祈念館の『「戦争マラリア」の実相を後世に正しく伝えるとともに、人間の尊厳が保障される社会の構築と、八重山地域から世界に向けて恒久平和の実現を訴える『「平和の発信拠点」の形成を目指す。』』という基本理念に沿った展示更新とする。

② 本館である沖縄県平和祈念資料館の理念、そこに示されている“沖縄のこころ”を踏まえた展示更新とする。

③ 誰一人取り残さないSDGsの理念に基づく多様な来館者に配慮した展示更新とする。

（3）検討対象

展示更新は、原則、次以下の範囲を対象とし、具体的な規模、手法はコストと合わせて検討する。



2 展示更新の内容

(1) 常設展示室（第一展示室）

① 現状

常設展示室は、1999（平成 11）年の開館以来、展示物の返還に伴う入替など一部の変更はあったものの、全体的な展示内容の整理・更新が行われておらず、なされたことはない。

また、経年により展示物「高熱に苦しむ母子像」の劣化が進んでいるものもある。

② 課題

ア 展示内容の追加、配置変更、整理

八重山平和祈念館（以下、「分館」という。）では常設展示室については、同館の設立経緯や『「戦争マラリア」の実相』を後世に正しく伝える』という基本理念から、「戦争マラリア」に関する資料や記録を中心に展示しているが、沖縄戦に至るまでの経緯や、マラリア防遏以外の戦後復興、周辺離島含む八重山全域における沖縄戦の実相に関する展示が不十分という指摘を受けている。

また、本館の設立理念“沖縄のこころ”を踏まえ、より幅広い視野から展示内容の見直しが必要との指摘も上がっている。

さらに、開館以降の沖縄戦等の調査・研究成果の反映、展示解説の充実や「戦争マラリア」の用語定義、マラリア犠牲者数の数値等の検討が必要となっている。沖縄県平和祈念資料館運営協議会八重山部会委員から「戦争に至る（巻き込まれる）までの経緯の説明がない」、「八重山の戦後史について、マラリア防遏以外の展示がなく不十分では」といった指摘が上がるなど、平和教育施設として展示内容の充実に課題がある。

イ 展示物の修繕・更新等

長期間展示されている展示物が多く、全体的に経年劣化が進行しており、特に戦争マラリア体験者が制作の作成した「高熱に苦しむ母子像」の経年による劣化は顕著である。

他にも、展示パネルの経年劣化や展示ケースに隙間ができているなど、展示設備にも不具合が生じているが進んでいる。

実物資料についてはレプリカを制作し、本体は適切に保管するなど、貴重な紙資料を後世に継承するための対策が必要である

そのほか、説明文についても老朽化により見えづらくなっているものがあり、更新が必要となっている。

ウ 証言資料を活用した展示の導入

戦争体験者の証言に触れてもらうことは、戦争を知らない人々に戦争の実相を伝える上で非常に有効であり、本館においても特に力を注いでいるところであるが、分館においては、そういった証言資料の活用が不十分となっている。

八重山地域でも、戦争体験記録の蓄積があり、これらの成果を生かし、より多くの人々と八重山で起きた沖縄戦の共有化を図る意味でも、証言資料を活用した展示を検討する必要がある。

エ 展示・情報発信手法の見直し

多言語解説の充実や、高齢者、様々な障がいのある方等の多様な来館者に配慮した展示手法を検討する必要がある。

また、映像やインターネット、デジタルアーカイブ等を活用した展示や情報発信手法の活用を検討する必要がある。

③ 展示更新の基本的な考え方

ア 展示内容の追加、配置変更、整理

開館以降に調査・研究されてきた「戦争マラリア」の実相や、沖縄戦に至るまでの経緯、マラリア防遏以外の八重山地域の戦後復興に関する展示を追加する。

また、「戦争マラリア」という言葉や、マラリア犠牲者数の数値など、表現や解説の見直しを検討する。

加えて、周辺離島を含む八重山全域における沖縄戦の実相や、現代における戦争と平和をめぐるテーマの追加を検討する。

基本理念に沿った上で、平和教育施設としての機能を高めるため、本館のように沖縄戦までの経緯や、マラリア防遏以外の八重山地域の戦後復興に関する資料を追加するとともに、テーマ及び観覧動線を考慮した現展示物の配置変更、スペースの活用のある方等について検討する必要がある。

イ 展示物の修繕・更新等

特に劣化の激しい進んでいる「高熱に苦しむ母子像」をはじめ、長年展示されている展示物の保存状態を確認し、修繕及び実物資料のレプリカ制作の必要性について検討するとともに、不具合の出ているケースなどの修繕についても検討する必要がある。

1 また、展示パネルについては、分館入り口（建物外）に設置されている「基本理念」
2 のパネルをはじめ、劣化が進行しているパネルの取り換え・更新、不足している展示
3 物への解説の追加について検討する。

4 説明文についても、来館者が見やすいよう、更新を検討する必要がある。

5 また、八重山平和祈念館入り口（建物外）に設置されている「基本理念」の劣化が
6 激しく、上記第一展示室の展示更新と併せて修繕する必要がある。

8 **ウ 証言資料を活用した展示の導入**

9 戦争の実相をより自分事として理解してもらうために、貴重な証言資料を多くの
10 人々と共有することを目指し、八重山地域及び出身者の戦争体験記録の蓄積・成果を
11 生かした展示の導入を検討する。

13 **エ 展示・情報発信手法の見直し**

14 多言語化を充実させるとともに、高齢者や様々な障がいのある方等が観覧しや
15 すいよう、展示ケースや展示パネルのあり方を見直すなど、多様な来館者に配慮し
16 た展示方法を検討する。

17 また、映像やインターネット、デジタルアーカイブ等を活用した展示や情報発信
18 手法の活用を検討する。

第3章 本構想を踏まえた基本計画の策定

基本計画の策定について

本構想を踏まえた基本計画を策定する。基本計画では、展示項目や展示構成、ゾーニング等を具体化する。なお、本構想において、更に検討を要する項目等については、基本計画、展示設計の中で検討を行うものとする。

【資料 4】

事務局提案（令和 6 年 12 月 3 日現在）

沖縄県平和祈念資料館及び八重山平和祈念館
展示更新基本構想
（最終案）

2024（令和 6）年 月 日

沖縄県平和祈念資料館

目 次

第1章 沖縄県平和祈念資料館（本館）

1 展示更新の趣旨

- (1) 経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 展示更新における基本方針・・・・・・・・ 2
- (3) 検討対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

2 展示更新の内容

(1) 常設展示室（2階）

- ① 現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- ② 課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - ア 利用状況を踏まえた対応力の強化・・・・・・・・ 4
 - イ 展示手法の見直し・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - ウ 老朽化した設備の整備・・・・・・・・・・・・ 4
 - エ 開館以降の歴史的事実の追加・・・・・・・・ 5
 - オ 新たな調査・研究内容の反映・・・・・・・・ 5
 - カ 自分に引き寄せて考えることができる展示・・・・ 5
- ③ 展示更新の基本的な考え方・・・・・・・・ 5
 - ア 利用状況を踏まえた対応力の強化・・・・・・・・ 5
 - イ 展示手法の見直し・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - ウ 老朽化した設備の整備・・・・・・・・・・・・ 6
 - エ 開館以降の歴史的事実の追加・・・・・・・・ 6
 - オ 新たな調査・研究内容の反映・・・・・・・・ 6
 - カ 自分に引き寄せて考えることができる展示・・・・ 6

(2) 子ども・プロセス展示室（1階）

- ① 現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- ② 課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - ア 展示内容の見直し・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - イ 展示手法の見直し・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - ウ 動線・空間利用の見直し・・・・・・・・・・・・ 7
 - エ 平和学習の場としての機能充実・・・・・・・・ 7
- ③ 展示更新の基本的な考え方・・・・・・・・ 8
 - ア 展示内容の見直し・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
 - イ 展示手法の見直し・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
 - ウ 動線・空間利用の見直し・・・・・・・・・・・・ 8
 - エ 平和学習の場としての機能充実・・・・・・・・ 9

1		
2		
3	(3) 情報ライブラリー (1 階)	
4	① 現状	9
5	② 課題	9
6	ア ライブラリー機能の充実	9
7	イ 証言映像の充実	9
8	ウ 学習の場としての機能の充実	10
9	エ 多様な来館者に配慮したサービスの向上	10
10	③ 展示更新の基本的な考え方	10
11	ア ライブラリー機能の充実	10
12	イ 証言映像の充実	10
13	ウ 学習の場としての機能の充実	11
14	エ 多様な来館者に配慮したサービスの向上	11
15		
16	第2章 八重山平和祈念館 (分館)	
17	1 展示更新の趣旨	
18	(1) 経緯	12
19	(2) 展示更新における基本方針	12
20	(3) 検討対象	13
21	2 展示更新の内容	
22	(1) 常設展示室 (第一展示室)	
23	① 現状	13
24	② 課題	13
25	ア 展示内容の追加、配置変更、整理	13
26	イ 展示物の修繕・更新等	14
27	ウ 証言資料を活用した展示の導入	14
28	エ 展示・情報発信手法の見直し	14
29	③ 展示更新の基本的な考え方	14
30	ア 展示内容の追加、配置変更、整理	14
31	イ 展示物の修繕・更新等	14
32	ウ 証言資料を活用した展示の導入	15
33	エ 展示・情報発信手法の見直し	15
34		
35	第3章 本構想を踏まえた基本計画の策定	
36	基本計画の策定について	16

第1章 沖縄県平和祈念資料館（本館）

1 展示更新の趣旨

（1）経緯

沖縄県立平和祈念資料館（以下、「旧資料館」という。）は、1975（昭和50）年、県民の戦争体験を結集し、戦没者の追悼と沖縄戦の教訓を正しく次の世代に伝え、もって全世界の人々に恒久平和を訴えるため建設された。

旧資料館は、沖縄戦を通じ、住民の視点から戦争の非人間性と残忍性を告発した画期的な施設として重要な役割を果たしてきたが、施設面での狭隘・老朽化から、沖縄戦の実相を展示することができず、平和事業活動や企画展示、資料収蔵等に支障が出る等の課題を抱えていた。

また、沖縄戦終結後も、27年に及ぶ米国による統治や、日本復帰後も残る広大な米軍基地の存在によって、沖縄は常に世界の戦場と隣り合わせの生活を強いられ、現在まで続く軍人、軍属による事件・事故、人権侵害や基地被害の現状と苦闘の中、人間の尊厳を踏みにじる「構造的暴力」をも考えさせられてきた。

沖縄戦から戦後に至るこの歴史的体験を通じ、つちかってきた“沖縄のこころ”とは、人間の尊厳を何よりも重く見て、戦争につながる一切の行為を否定し、平和を求め、人間性の発露である文化をこよなく愛する心である。

戦争の犠牲になった多くの霊を弔い、沖縄戦の歴史的教訓を正しく次世代に伝え、全世界に“沖縄のこころ”を発信し、もって世界の恒久平和の樹立に寄与する施設として、旧資料館を移転改築し、2000（平成12）年、沖縄県平和祈念資料館（以下、「現資料館」という。）を建設した。開館前には、監修委員会の承諾を得ずに展示内容の変更を行う事態が発生したため、今回の展示更新にあたっては、監修委員会の議論を適宜公表するなど、透明性の確保を図るとともに、来館者や多くの県民の意見も取り込み展示内容を検討する。

現資料館は、旧資料館と比較し、延べ面積が約10倍、展示面積が約5倍に拡大し、旧資料館の沖縄戦の実相に関する展示に、戦前、戦後の沖縄の歴史を追加するとともに、子ども達が未来を展望するゾーンとして、子ども・プロセス展示室や情報ライブラリーなど、国際理解や環境問題、人権問題なども含めた平和発信・平和学習の機能も備えている。

しかしながら、開館から25年が経過し、経年による施設・設備の老朽化に加え、開館後の歴史的事実の追加や、『沖縄県史』等の沖縄戦に関する新たな調査・研究に基づく記述等を踏まえた説明文の見直し等、時代に即した展示内容の更新が必要になっている。

加えて、外国人や障がいのある方等、多様な来観者に配慮し、多言語化や展示手法等の見直し、平和学習の場としてさらに活用してもらうための施設機能の充実が望まれる。

戦後80年を前に、広島平和記念資料館や長崎原爆資料館、ひめゆり平和祈念資料館など、県内外の平和博物館においては、戦禍の記憶を風化させず、次世代に継承するため、展示リニューアルに取り組んでいる。

1 本県においても、戦争体験者が約1割未満となり、戦争体験者なき時代に向かう現在
2 は、大きな分岐点にさしかかっており、近年の若者にとって、沖縄戦は遠い過去の歴史に
3 なりつつある。沖縄戦の実相と教訓を伝える平和発信拠点施設として、次世代に向け、自
4 分事として、我が身に置き換える「共感力」や、「危機感」をどう引き出せるかが大きな
5 課題となっている。

6 ガザ地区でのイスラエルとパレスチナの軍事衝突や、ロシアによるウクライナ侵攻、
7 台湾有事の懸念など国際情勢が不安定な昨今においては、沖縄戦から時間が経過するほ
8 どに、平和発信拠点施設としての役割はますます重要になっている。

9 これらの課題に対応し、世界の恒久平和の実現に寄与するためには、リニューアルを
10 通して、沖縄戦の記憶を風化させず、未来の若者達の心に響く展示内容について、模索
11 し、より一層、発信力のある平和祈念資料館に生まれ変わる必要がある。

12 現資料館の展示更新にあたっては、「設立理念」と「展示むすびのことば」を継承し、
13 老朽化に対応した設備の整備と併せ、時代に即した展示更新を実施し、平和学習等の施
14 設機能の充実と、様々な事業活動が効果的に展開できる体制を整え、平和発信の拠点施
15 設として、より一層の発信力の強化を図る。

17 (2) 展示更新における基本方針

- 18 ① 当館の「設立理念」と「展示むすびのことば」を継承した展示更新とする。
- 19 ② 誰一人取り残さないSDGsの理念に基づく多様な来館者に配慮した展示更新とする。
- 20 ③ 平和について学習する場の充実を目指した展示更新とする。
- 21 ④ 「平和の礎」との連携を意識した展示更新とする。
- 22 ⑤ 国内外の平和博物館及び関連施設との連携を目指した展示更新とする。

24 (3) 検討対象

25 展示更新は、原則、次の範囲を対象とし、具体的な規模、手法はコストと合わせ検討す
26 る。

対 象

常設展示室（２階）

老朽化した設備を整備するとともに、多様な来観者に配慮した展示手法や、開館後の歴史的事実、沖縄戦に関する新たな調査・研究を踏まえ、展示内容を更新する。

子ども・プロセス展示室（１階）

変化する国際情勢等に対応した展示や平和や人権などの課題を自分事化して考えることができる展示内容に更新するとともに、動線・空間利用の見直し、平和学習の場としての機能を拡充する。

情報ライブラリー（１階）

情報発信機能や調査・研究機能の充実と、戦争体験者等の証言や平和学習の教材など、多様な情報を提供し、来館者が利用しやすいサービスの向上に繋げる。

全館共通（１・２階）

多様な来館者のニーズに対応した展示を目指すとともに、国内外への平和発信拠点施設としての機能の向上に繋げる。

内 容

- 利用状況を踏まえた対応力の強化
- 展示手法の見直し
- 老朽化した設備の整備
- 開館以降の歴史的事実の追加
- 新たな調査・研究内容の反映
- 自分に引き寄せて考えることができる展示

- 展示内容の見直し
- 展示手法の見直し
- 動線・空間利用の見直し
- 平和学習の場としての機能充実

- ライブラリー機能の充実
- 証言映像の充実
- 学習の場としての機能の充実
- 多様な来館者に配慮したサービスの向上

- 読みやすいフォントの使用、判別しやすい色・背景の工夫や、段差がないフラットなエリアの整備 等
- 国内外の平和博物館及び関連施設との連携

2 展示更新の内容

(1) 常設展示室（2階）

① 現状

常設展示室は、2000（平成12）年の開館以来、展示更新は行われていない。

開館から現在までに『沖縄県史各論編6 沖縄戦』をはじめ各分野の新しい『沖縄県史』が発刊されるなど、沖縄戦と女性史を含む沖縄の近現代史に関する新たな調査・研究の成果が蓄積されており、第1室から第3室はそれらを踏まえて展示構成、説明文の見直し等が必要となっている。

戦後の沖縄をテーマとする第5室においても同様に、新たな研究成果を反映させるとともに、米軍基地に関連する主な出来事（事件・事故など）や、近年の沖縄をめぐる軍事強化などについての展示・文言を見直し、開館以降に起きた出来事も追加する必要がある。

展示設備についても、システムの経年劣化による故障や、展示説明文が見えづらくなっている箇所が見受けられ、修繕または取り替えが必要である。

また、第4室の証言集や証言映像についても、証言本の劣化や、近年増加する外国人来館者に対応するための外国語表記や音声ガイダンス機器等の不足のほか、機器の故障なども出てきている。

② 課題

ア 利用状況を踏まえた対応力の強化

本施設には、県内外から多数の児童・生徒が平和学習に訪れるが、観覧時間に制限があるため、時間をかけて展示室を観覧することができず、通り過ぎる程度になってしまうケースも多く見られる。展示が、児童・生徒たちの興味・関心を引き出せていない、内容が難解すぎるとの指摘もあり、沖縄の近現代史に関する情報や知識をあまり持ち合わせていない児童・生徒への対応が課題となっている。

一方で、より広く・深く知りたいという専門性の高い学習ニーズにも対応することも求められており、双方のニーズにより的確に対応できる展示構成の見直しが課題となっている。

イ 展示手法の見直し

近年増加傾向にある外国人に対応した多言語解説の充実や、高齢者、様々な障がいのある方等の多様な来館者に配慮した展示手法の見直しが課題となっている。

また、疑似体験など、体験性を高める先端技術の導入や、携帯端末のアプリによるガイダンス等、IT技術を活用した効果的な展示手法を取り入れる必要がある。

さらに、デッドスペースがいくつか見られ、空間やスペースを活用しきれていない状況があり、周囲のスペースと組み合わせ、動線、見学場所の改善を図る必要がある。

ウ 老朽化した設備の整備

第2室のメイン展示は、スクリーンに映し出される米軍記録映像と、ジオラマ上に

展開するレーザーポインターによる演出が連動して、「沖縄戦の戦闘経緯」を伝える仕組みとなっているが、システムの経年劣化でほとんど機能していない。

こうした状況をはじめ、各展示室において、修繕・取替が必要な設備が多く、解説パネルやキャプションについても、老朽化により見えづらくなっている箇所が見受けられ、設備の更新又は新設が必要である。

エ 開館以降の歴史的事実の追加

第5室においては、米軍基地から派生する事件・事故の説明文の見直しや、沖縄県の置かれた状況など、1998（平成10）年以降の展示内容の追加が必要となっている。

一方、スペースが狭隘なため、テーマ及び展示内容の精選、展示構成の見直しが必要である。

オ 新たな調査・研究内容の反映

新しい『沖縄県史』が編纂されたことをはじめ、沖縄戦と女性史を含む沖縄の近現代史に関する調査・研究の成果が蓄積されている。こうした最新の研究成果を取り入れた展示内容に更新することが求められている。

カ 自分に引き寄せて考えることができる展示

戦争体験者なき時代を迎えつつある今、若年層にとって「沖縄戦」は遠い過去の歴史になりつつある。戦争を身近に捉えることが難しくなっており、沖縄戦の実相や教訓を、他人事ではなく、自分に引き寄せて感じ・考えることができる展示の構築が、大きな課題となっている。

③ 展示更新の基本的な考え方

ア 利用状況を踏まえた対応力の強化

平和学習を目的に訪れる児童・生徒等は、観覧時間に制限があり、基礎的な情報をあまり持ち合わせていない。このような来館者に対応する上で、基礎的な内容を中心に、短時間でもポイントを絞って効率的に観覧できる方法を整備するとともに、一方では、より高度で専門性の高い内容を求め、深く考えようとする学習のニーズにも的確に対応できる展示と解説システムの構築を行う。

また、沖縄県内の来館者の関心に応えると同時に、県外からの来館者に、沖縄の問題を自らの問題として理解し、考えることができるような内容・方法を検討する。

イ 展示手法の見直し

国内外に平和を発信する施設として、外国人に対応した多言語化を充実させるとともに、高齢者や様々な障がいのある方等が、観覧しやすいよう、展示ケースの側面をガラス張りに変更するなど、多様な来館者に配慮した展示手法の見直しを検討する。

また、来館者に沖縄戦の惨禍を、よりリアルに体験してもらうため、3Dなどの立

1 体映像を活用した展示や、AR、VR、プロジェクションマッピングなどの先端技術の導
2 入、来館者の利便性向上のため、携帯端末のアプリによるガイダンス等、IT 技術の
3 導入も含め、展示手法を検討する。

4 5 **ウ 老朽化した設備の整備**

6 経年劣化により故障等不具合のある展示設備については、取り替えまたは修繕す
7 るとともに、旧式の展示設備については、先端的な展示設備の導入も検討する。

8 また、老朽化して見えづらくなっている解説パネルや説明文についても、来館者が
9 読みやすい文字や色づかいを考慮しながら更新するとともに、多様な来館者に配慮
10 した多言語化、展示手法についても検討する。

11 12 **エ 開館以降の歴史的事実の追加**

13 第5室における、1998（平成 10）年以降の主な出来事として、沖縄国際大学への
14 大型輸送ヘリ墜落や、女性への性暴力等の米軍基地から派生する事件・事故、環境問
15 題、今なお残る基地の現状や近年の軍事強化など、沖縄県の置かれている状況につ
16 て、展示内容を追加する。

17 なお、新たな展示内容を追加するにあたっては、第5室のスペースが狭隘であるた
18 め、効果的な空間活用や展示構成、展示手法について見直す。

19 「変貌する世界情勢」や「未来への平和創造」、「国際連合」、「NGO」などの国際情
20 勢に関する展示については、1 階の子ども・プロセス展示室の展示内容と合わせて展
21 示構成を検討する。

22 23 **オ 新たな調査・研究内容の反映**

24 新しい『沖縄県史』をはじめ、沖縄戦と女性史を含む沖縄の近現代史に関する調
25 査・研究の成果を踏まえ、新たな視点の導入、発信する情報の精査・更新、展示構成
26 の見直し、解説文の更新など、最新の研究成果を取り入れた展示内容となるよう検討
27 する。

28 29 **カ 自分に引き寄せて考えることができる展示**

30 来館者が、沖縄の近代から今日に至るまでの歩み、特に沖縄戦や基地問題を他人事
31 ではなく、自分に引き寄せて感じ、そして考えることができる展示を目指し、研究成
32 果に基づいた基礎的な事実を提示すると同時に、来館者に問いかけて、自ら考えるこ
33 とを促す効果的な展示手法を検討する。

34 また、本資料館と「平和の礎」との連携を意識した展示を検討する。

35 36 **（２）子ども・プロセス展示室（１階）**

37 **① 現状**

38 子ども・プロセス展示室は、グローバル化が進む社会情勢のもと、世界に向けて平和
39 を発信するという当館の設立の目的から、未来を担う子ども達に、国際理解と平和の

1 概念の普及を促進するとともに、平和を愛する心を育む場として設けられた。

2 しかしながら、展示されている世界各国の状況は開館当時のままであり、現在の国際
3 情勢の内容にそぐわないものになっている。

4 また、展示されている各国のおもちゃなどについても、壊れて使えないものが多い。

6 ② 課題

7 ア 展示内容の見直し

8 開館から 25 年が経過し、世界各国の状況、国際情勢は変化しているものの、展示
9 物は固定化されており、構造上の問題から、展示内容を更新できない状況にある。

10 また、現在展示されている世界各国の「遊び」は、今では「昔の遊び」になってお
11 り、壊れて使えないおもちゃも多い。

12 さらに、世界の戦争・紛争、国際理解、いじめなどの人権問題、地球環境問題につ
13 いて、知り、考え、意見を出すプロセスを実践するという展示室全体のコンセプトが
14 理解しづらくなっている。

15 このため、変化していく国際情勢に対応し、更新可能な展示のあり方や、平和や人
16 権などの普遍的な課題について自分事として考えられるような、展示内容等につ
17 て検討する必要がある。

18 イ 展示手法の見直し

19 展示物の構造上、予め作り付けて設置されているため、時代の変化に対応した展示
20 内容に変更ができない。

21 このため、柔軟に展示物の更新が可能となるような展示手法の見直しが必要であ
22 る。

23 ウ 動線・空間利用の見直し

24 同展示室は入口・出口が明確でなく、順路もない。各展示が機能的に結びついてい
25 ないこともあり、展示室全体のコンセプトがわかりづらくなっている。

26 1 階部分の大きな面積（518 m²）を占めているが、展示物が時代に見合わないもの
27 が多くなっていることに加え、これらの固定的な展示物が前面に配置されている。

28 このため、子どものための企画展は、「ゆいまーる広場」にて開催しているが、展
29 示室の奥側に位置し、来館者から見えづらく、うまく誘導できる配置にはなっていな
30 い。

31 また、「親子や友人同士で平和について語り合える場」であることもコンセプトに
32 しているが、語り合える場が明確でないため、展示室全体の動線やスペースの利用方
33 法も検討する必要がある。

34 エ 平和学習の場としての機能充実

35 来館者が、過去の歴史と現代の課題を認識し、そこに存在する構造的暴力の問題に
36 意識を向け、正解のない問いと向き合い、それらを克服するための多様な選択の可能
37

性があることを自ら認識できるよう導くためには、戦争が起こる背景や、その他の社会的な様々な問題について学習を深め、これらを自分事として捉え、主体的に平和創造の担い手となる人材を育む学びの場とする必要がある。

2階の常設展示室での内容と、1階の展示室の内容を、過去と未来と位置づけ、多角的な視野から、過去の歴史を学習することの重要性や、これらを通して、現在の国際情勢についても理解を深め、共感力を引き出し、1階と2階の展示室、「平和の礎」を往還する学びの空間として捉え、相互に関連付けられた事象であることを学習できる場としての機能を充実させる必要がある。

③ 展示更新の基本的な考え方

ア 展示内容の見直し

本展示室の立地条件を生かし、より「平和の礎」との結びつきを意識するような展示内容を検討する。

例えば、「平和の礎」の刻銘者の家族、あるいは刻銘者と関わりのある人々を取り上げることで、展示と「平和の礎」を往還する学びの空間と捉える。

そして、戦争の犠牲者が名前を持った“自分と同じ一人の人間である”こと、自分と近い年齢の人がいたことなど、自分事として戦争を追体験できるような構成にすることが考えられる。

その際、「平和の礎」が、世界の恒久平和を願い、一人一人の生命と平和を何よりも大切にする“沖縄のこころ”の象徴であることから、国籍や軍人、民間人の区別なく、沖縄戦などで亡くなられたすべての戦没者が刻銘対象となっており、個々人それぞれに多様な戦争体験があったことに留意する。

イ 展示手法の見直し

予め作り付けて設置されているという展示物の構造上、時代の変化に対応した展示内容の更新ができない。

デジタルディスプレイを導入するなど、柔軟に展示内容の更新が可能となるような展示手法を検討する。

沖縄戦の教訓や、沖縄戦の歴史的事実に関しては常設的な展示にすることや、テーマによって展示のあり方を変えるなど、展示手法について柔軟に検討する。

また、来館者の興味・関心を引き出し、積極的に展示を見学してもらうために、先端技術を導入するなど、より効果的な展示手法のあり方も検討する。

子ども、高齢者、障がいのある方、あるいは海外から来た人や海外にルーツを持つ人、日本語を母語としない人など、多様な来館者が理解できるように、「やさしい日本語」の使用、音声での解説、多言語化、ビジュアル資料の多様など展示表現についても検討する。

ウ 動線・空間利用の見直し

「平和の礎」と関連した、沖縄戦を体験した人々に関する展示、沖縄戦の事例から

戦争・人権問題などの世界的・現代的な課題を考える展示と、動線を明確にすることで展示室全体のコンセプトについて理解しやすくなるように工夫する。

それに加えて、情報ライブラリーに誘導するような動線や、情報ライブラリーにある図書を案内するなど、情報ライブラリーとの連携が強まるような工夫も必要である。

また、来館者と展示、あるいは来館者同士が平和について語り合える空間となるように、学び合いができるようなスペースを設けるなど、空間の利用方法についても検討する。

エ 平和学習の場としての機能充実

来館者が、2階の常設展示室を観覧後、1階にて、実弾等に触れられるスペースを確保することによって、沖縄戦についてより理解が深められ、視覚障がいのある方でも触れることにより、戦争の恐ろしさを体感することができる。

また、「平和の礎」刻銘者に関する展示や、例えば2024(令和6)年現在で言うと、パレスチナ自治区ガザでの紛争やウクライナ情勢など「今」、世界で起こっている出来事を1階展示室で観覧後、2階の常設展示室における沖縄戦の実相をより詳しく学ぶことにより、来館者が過去の歴史を学習しつつ、現在の世界的な課題についても理解を深め、過去と未来を関連付け、身近に起こり得る危機について、自分事として考え、何ができるのかを学習する場となるようにする必要がある。

さらに、再来館を促せるよう、身近な時宜を得たテーマを取り上げ展示することにより、1階と2階の展示室を、交互に行き来したくなるような学習の場としての仕掛け作りと、学習の場としてのコンテンツが充実するよう検討する。

(3) 情報ライブラリー（1階）

① 現状

情報ライブラリーでは、数多くの図書・雑誌を閲覧できるほか、AV(Audio/Visual)ブースでは戦争体験者の証言映像等も見ることが出来るが、経年劣化による故障により、映像等が視聴できない機器も多い。

また、1階の子ども・プロセス展示室の右隣奥側にあり、来館者の目に留まりにくく、利用者が少ない状況にある。

② 課題

ア ライブラリー機能の充実

平和学習や調査研究活動を支援するため、沖縄戦や平和に関する書籍のさらなる充実を目指すとともに、利用者の利便性の向上のため、利用しやすい書架や学習スペース等の配置の工夫や、一部図書の貸し出しについて検討する必要がある。

イ 証言映像の充実

2階常設展示室の第4室においては、戦争体験者の証言集や証言映像を多数展示

1 しているが、個々の来館者の観覧時間の制約により、時間をかけて証言を視聴するこ
2 とが難しい状況にある。

3 このため、1階の情報ライブラリーにおいて、第4室と同様、証言映像コーナーを
4 設置し、時間をかけて無料で視聴できるようにしているが、老朽化による映像機器の
5 故障が多く見られ、設備の更新が必要である。

6 また、2020（令和2）年度から取り組んでいる、「戦後の戦争体験者証言」、2022（令
7 和4）年度に収録した「米国統治下時代の証言」についても、追加して視聴出来るよ
8 うにする必要がある。

9 さらに、戦後79年が経過し、当時の暮らしや慣習を知らない人が多いため、証言
10 映像は字幕の追加に加え、証言に出てくる用語の解説や、場所を示した地図などを追
11 加する必要がある。

12 13 **ウ 学習の場としての機能の充実**

14 学生等が、常設展示の理解を深めるため、資料館で作成したワークシートやクイズ
15 コーナーを活用して学習したり、学校教諭や平和ガイドなどが、平和学習のために必
16 要な教材や資料を入手したり、平和学習を進めるためのノウハウなどを相談しやす
17 い環境づくりが必要である。

18 また、来館者が気軽に立ち寄り、ゆっくりと腰をかけ、研究や学習に集中できるよ
19 うな空間づくりが必要である。

20 21 **エ 多様な来館者に配慮したサービスの向上**

22 子どもをターゲットにした子ども・プロセス展示室の右奥側に隣接したスペース
23 に位置しているため、高齢者や車椅子利用者等、多様な来館者が利用しやすい動線配
24 置とはなっていない。

25 子どもだけでなく、高齢者も含め、車椅子利用者やベビーカーの利用者、障がいの
26 ある方々にとっても利用しやすく、幅広い年齢層の利用者のニーズに対応できる情
27 報発信が可能な施設となるよう整備する必要がある。

28 29 **② 展示更新の基本的な考え方**

30 **ア ライブラリー機能の充実**

31 平和学習や調査研究活動を支援するため、幅広い年齢層の多様な来館者のニーズ
32 に対応できるよう、沖縄戦や平和に関する書籍のより一層の充実を目指すとともに、
33 来館者の利便性向上のため、一部図書の貸し出しについて検討する。

34 また、再来館につながられるように観覧動線を考慮し、利用しやすい書架や学習ス
35 ペース等の配置などを検討する。

36 37 **イ 証言映像の充実**

38 2階常設展示室の第4室における、戦争体験者の証言集や証言映像が、無料で、時
39 間をかけて視聴できるよう、1階の情報ライブラリーにおける、証言映像コーナーの

映像機器の更新や増設などを検討する。

また、2020（令和2）年度に収録した「戦後の戦争体験者証言」、2022（令和4）年度に収録した「米軍統治下時代の証言」についても、視聴可能となるよう追加を検討し、日本語を母語としない人でも視聴可能となるよう多言語化への対応も検討する。

加えて、字幕や証言に出てくる用語の解説、場所を示した地図などの追加も検討する。

ウ 学習の場としての機能の充実

学生等が、常設展示の理解を深めるため、資料館で作成したワークシートやクイズコーナーを活用し学習したり、学校教諭や平和ガイドなどが、平和学習のために必要な教材や資料を入手したり、平和学習を進めるためのノウハウなどを相談しやすい環境づくりを検討する。

また、来館者が気軽に利用できるような動線の工夫と、ゆっくりと腰をかけ、研究や学習に集中できるような空間づくりを検討する。

エ 多様な来館者に配慮したサービスの向上

子どもだけでなく、幅広い年齢層の利用者を誘導するための動線の配置について検討するとともに、外国人向けの多言語サービスや、障がいのある方などの利用者の多様なニーズに対応し、情報発信が可能となるよう、様々なサービスの向上を目指し、検討する。

第2章 八重山平和祈念館（分館）

1 展示更新の趣旨

（1）経緯

八重山平和祈念館は、「マラリア慰藉事業」一つとして設立した。

沖縄戦末期、八重山諸島では日本軍による命令でマラリア有病地帯に疎開させられ、3千余名の尊い命が失われた。米軍との地上戦もない中で、多くの住民が強制疎開させられ犠牲となった沖縄戦の実相を「戦争マラリア」と呼ぶ。これらの犠牲を含めて、沖縄県は、1973（昭和48）年から沖縄戦被災者補償を国に要請していた。

他方、「戦争マラリア」で亡くなった住民の遺族らは、1989（平成元）年に「沖縄戦強制疎開マラリア犠牲者援護会」を結成し、政府に対し「戦時中の八重山地域におけるマラリア犠牲者国家補償に関する陳情書」を提出した。

1995（平成7）年、政府による戦後50年問題プロジェクトチームは、「マラリア問題は重要な検討項目」と位置付け、日本軍による疎開命令によって戦没したという特異性を重く受け止め、1999（平成11）年に八重山地域を対象とする慰藉事業の一つとして八重山平和祈念館が設立され、沖縄県平和祈念資料館の分館として位置付けられた。

八重山平和祈念館は、沖縄戦や「戦争マラリア」の実相を後世に正しく伝えるとともに、人間の尊厳が保障される社会の構築と、世界に向けて恒久平和の実現を訴える「平和の発信拠点」という基本理念を掲げている。開館以降、八重山の地域の人々や修学旅行生をはじめ、県内外から延べ12万6千人を超える人々の来館があり、八重山地域における「戦争マラリア」の実態を中心に、戦争による悲劇の記憶や平和への思いを次世代へとつなげている。

しかし、展示の大半が「戦争マラリア」に焦点を当てたものとなっていることに対して、沖縄県平和祈念資料館運営協議会八重山部会委員から、「沖縄戦に至るまでの経緯の説明がない」、「マラリア防遏以外の戦後復興についても展示が必要では」などといった指摘を受けているが、これまで、この課題への議論・検討を進められていない。

また、沖縄県平和祈念資料館の分館として、本館の理念に示された「人間の尊厳を何よりも重くみる」「戦争につながる一切の行為を否定」「平和を求める」「人間性の発露である文化をこよなく愛する心」という“沖縄のこころ”を踏まえた、より広い視野から展示内容を見直すべきとの指摘も上がっている。

また、開館から26年が経過し、経年により展示物の劣化が進み、解説パネルの文字が読みにくい等の状況も生じており、展示物の修繕も課題となっている。

今回の展示更新に当たっては、展示内容の整理・更新を行うとともに、劣化した展示物の修繕等を行い、平和を発信する拠点施設として展示内容のより一層の充実を図る。

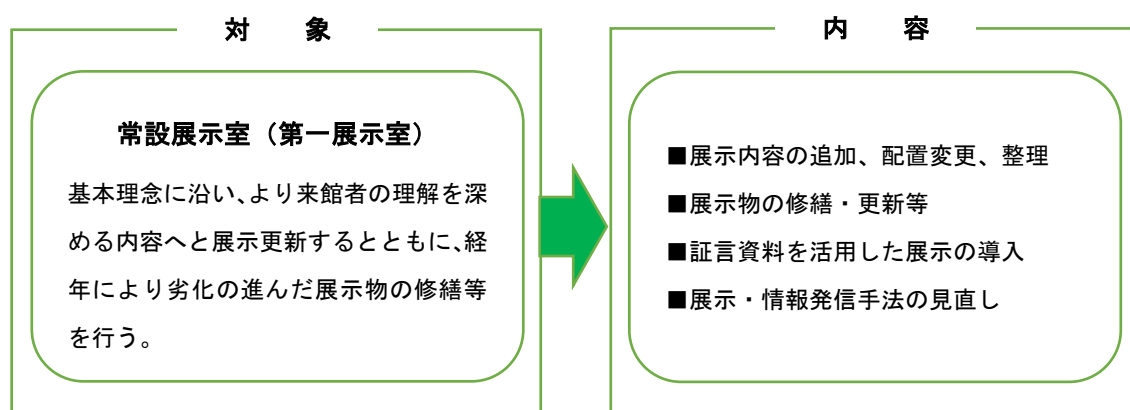
（2）展示更新における基本方針

① 八重山平和祈念館の『戦争マラリア』の実相を後世に正しく伝えるとともに、人間の尊厳が保障される社会の構築と、八重山地域から世界に向けて恒久平和の実現を訴える『平和の発信拠点』の形成を目指す。」という基本理念に沿った展示更新とする。

- ② 本館である沖縄県平和祈念資料館の理念、そこに示されている“沖縄のこころ”を踏まえた展示更新とする。
- ③ 誰一人取り残さないSDGsの理念に基づく多様な来館者に配慮した展示更新とする。

(3) 検討対象

展示更新は、原則、次の範囲を対象とし、具体的な規模、手法はコストと合わせて検討する。



2 展示更新の内容

(1) 常設展示室（第一展示室）

① 現状

常設展示室は、1999（平成 11）年の開館以来、展示物の返還に伴う入替など一部の変更はあったものの、全体的な展示内容の整理・更新が行われておらず、劣化が進んでいるものもある。

② 課題

ア 展示内容の追加、配置変更、整理

八重山平和祈念館（以下、「分館」という。）では、設立経緯や『戦争マラリアの実相』を後世に正しく伝える」という基本理念から、「戦争マラリア」に関する資料や記録を中心に展示しているが、沖縄戦に至るまでの経緯や、マラリア防遏以外の戦後復興、周辺離島含む八重山全域における沖縄戦の実相に関する展示が不十分という指摘を受けている。

また、本館の設立理念“沖縄のこころ”を踏まえ、より幅広い視野から展示内容の見直しが必要との指摘も上がっている。

さらに、開館以降の沖縄戦等の調査・研究成果の反映、展示解説の充実や「戦争マラリア」の用語定義、マラリア犠牲者数の数値等の検討が必要となっている。

イ 展示物の修繕・更新等

長期間展示されている展示物が多く、全体的に経年劣化が進行しており、特に戦争

マラリア体験者が制作した「高熱に苦しむ母子像」の経年劣化は顕著である。

他にも、展示パネルの経年劣化や展示ケースに隙間ができていたり、展示設備にも不具合が生じている。

実物資料についてはレプリカを制作し、本体は適切に保管するなど、貴重な紙資料を後世に継承するための対策が必要である。

ウ 証言資料を活用した展示の導入

戦争体験者の証言に触れてもらうことは、戦争を知らない人々に戦争の実相を伝える上で非常に有効であり、本館においても特に力を注いでいるところであるが、分館においては、そういった証言資料の活用が不十分となっている。

八重山地域でも、戦争体験記録の蓄積があり、これらの成果を生かし、より多くの人々と八重山で起きた沖縄戦の共有化を図る意味でも、証言資料を活用した展示を検討する必要がある。

エ 展示・情報発信手法の見直し

多言語解説の充実や、高齢者、様々な障がいのある方等の多様な来館者に配慮した展示手法を検討する必要がある。

また、映像やインターネット、デジタルアーカイブ等を活用した展示や情報発信手法の活用を検討する必要がある。

③ 展示更新の基本的な考え方

ア 展示内容の追加、配置変更、整理

開館以降に調査・研究されてきた「戦争マラリア」の実相や、沖縄戦に至るまでの経緯、マラリア防遏以外の八重山地域の戦後復興に関する展示を追加する。

また、「戦争マラリア」という言葉や、マラリア犠牲者数の数値など、表現や解説の見直しを検討する。

加えて、周辺離島を含む八重山全域における沖縄戦の実相や、現代における戦争と平和をめぐるテーマの追加を検討する。

イ 展示物の修繕・更新等

劣化の激しい「高熱に苦しむ母子像」をはじめ、長年展示されている展示物の保存状態を確認し、修繕及び実物資料のレプリカ制作の必要性について検討するとともに、不具合の出ているケースなどの修繕についても検討する。

また、展示パネルについては、分館入り口（建物外）に設置されている「基本理念」のパネルをはじめ、劣化が進行しているパネルの取り換え・更新、不足している展示物への解説の追加について検討する。

ウ 証言資料を活用した展示の導入

戦争の実相をより自分事として理解してもらうために、貴重な証言資料を多くの

1 人々と共有することを目指し、八重山地域及び出身者の戦争体験記録の蓄積・成果を
2 生かした展示の導入を検討する。

3
4 **エ 展示・情報発信手法の見直し**

5 多言語化を充実させるとともに、高齢者や様々な障がいのある方等が観覧しや
6 すいよう、展示ケースや展示パネルのあり方を見直すなど、多様な来館者に配慮し
7 た展示方法を検討する。

8 また、映像やインターネット、デジタルアーカイブ等を活用した展示や情報発信
9 手法の活用を検討する。

第3章 本構想を踏まえた基本計画の策定

基本計画の策定について

本構想を踏まえた基本計画を策定する。基本計画では、展示項目や展示構成、ゾーニング等を具体化する。なお、本構想において、更に検討を要する項目等については、基本計画、展示設計の中で検討を行うものとする。

沖縄県平和祈念資料館及び八重山平和祈念館
展示更新基本計画

※本資料に示している内容は、ページのイメージを
分かりやすくするための、あくまでも仮のものです。

第 1 章 沖縄県平和祈念資料館（本館）

1. 展示更新の目指すべき方向性

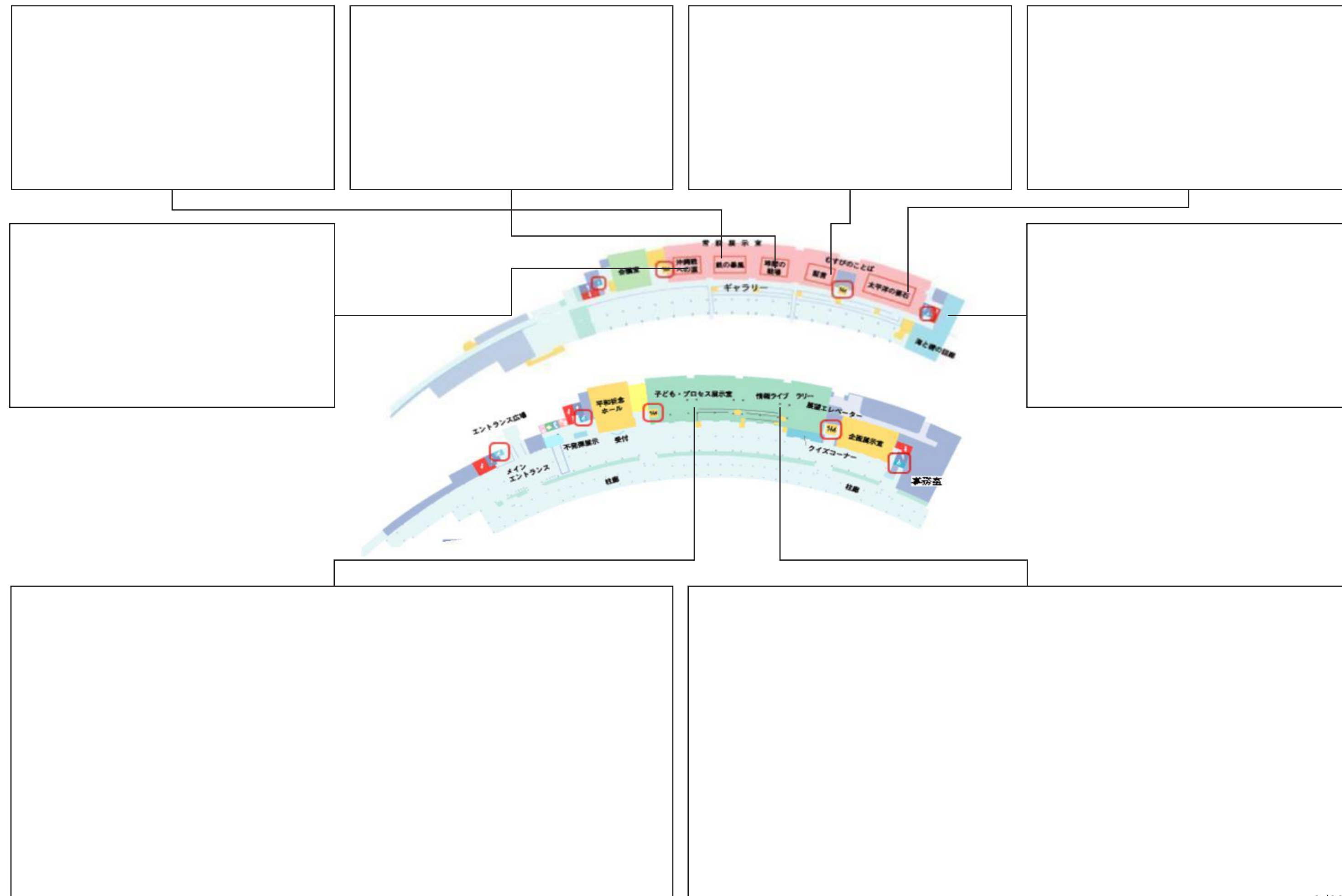
□ 現段階での記述内容のイメージ・例

- ・ 本資料館の開館以降蓄積された最新の研究成果が反映されている展示。
- ・ 利用者が自分に引き寄せて感じたり、考えたりすることができる展示＝自分事化を促す展示。
- ・ 1 階と 2 階の役割分担の明確化と連携強化。
- ・ 礎と往還する学習空間の創出。
- ・ ユニバーサルデザインの強化。
- ・ 先端技術の効果的導入。

等々

※上記は、あくまでこれまでの議論から想定されるイメージ。
確定のものではありません。

2. 展示更新の対象エリア



3. 展示更新の内容

(1) 常設展示室 (2 階)

①展示の全体構成

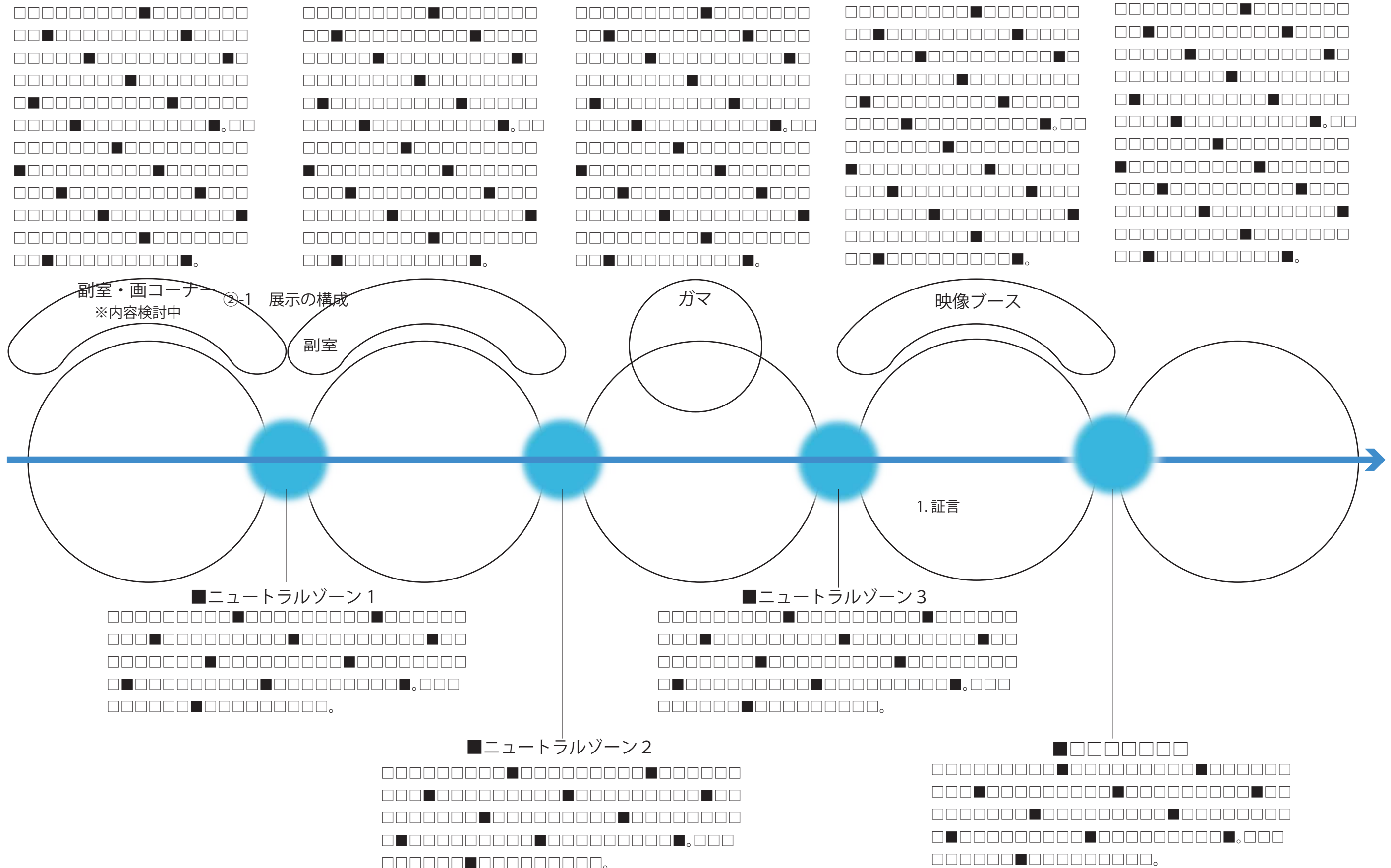
第1展示室；沖縄戦への道

第2展示室；鉄の暴風

第3展示室；地獄の戦場

第4展示室；証言

第5展示室；太平洋の要石



②「むすびのことば」の位置の見直し

□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■
□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■
□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■
□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■

→「むすびのことば」の位置の見直しの必要性について記載。移設場所の決定については、基本設計以降となることも想定。

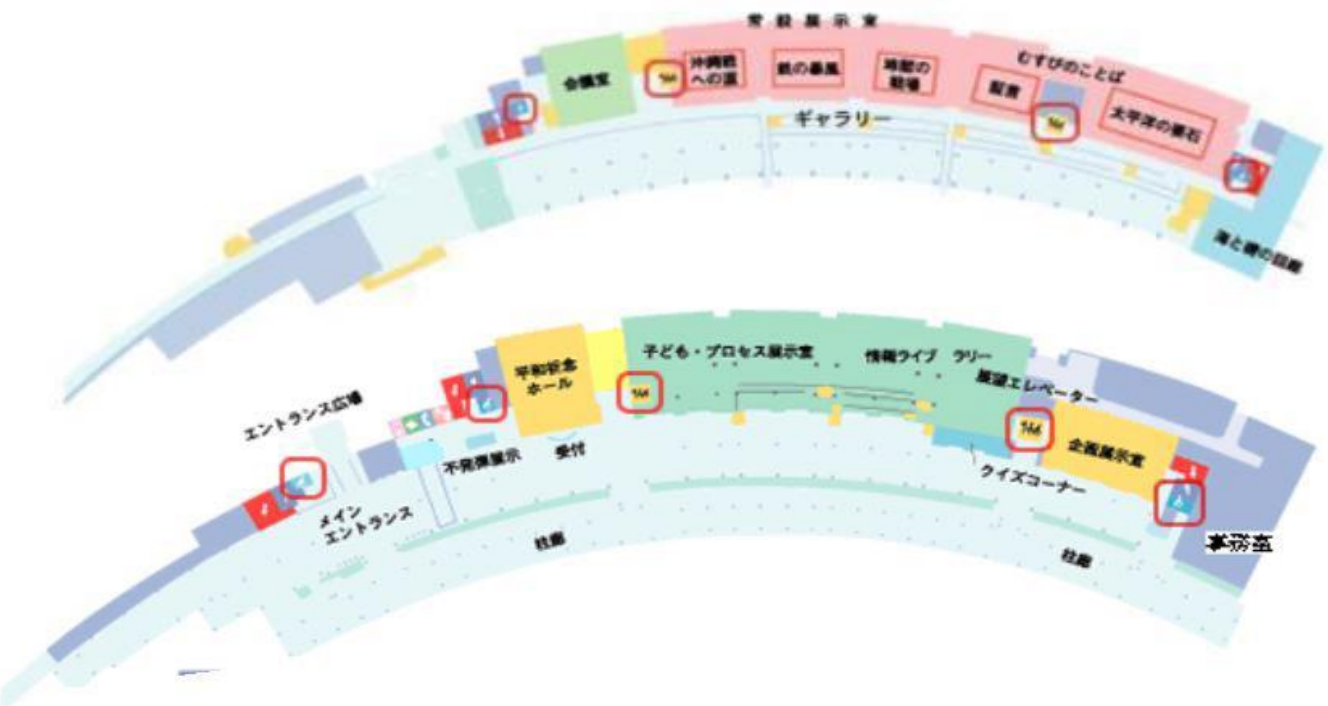
■「むすびのことば」の位置

＜更新前の位置＞

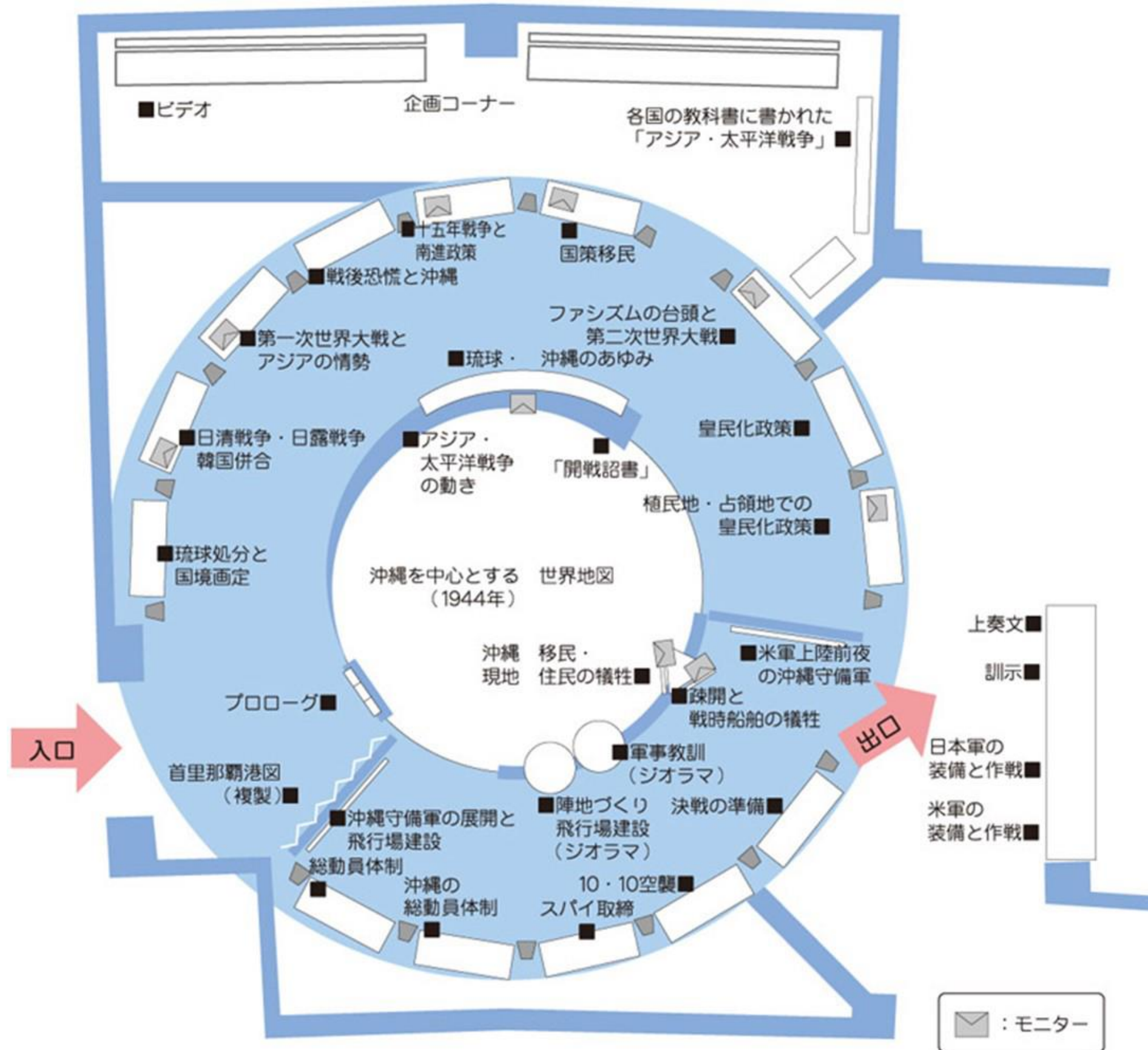
ア. 結びの言葉の位置の見直し



＜移設場所の候補＞



③-4 更新後のゾーニング



(③-5 主な展示更新のイメージ)

※主な更新展示のイメージについて、基本計画に示せるまで、議論を進めることができたものがあれば項を追加して提示する。

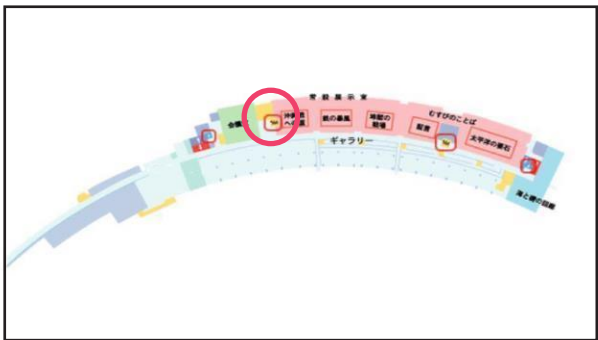
※A4 縦になるかもしれません。

④第2展示室「鉄の暴風」/ニュートラルゾーン2の展示更新の内容

④-1 更新の主旨

□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
□□□□□■□□□□□□□□■。□□□□□□□□■□□□□□□□□
□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
□□□■。□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□

■キープラン



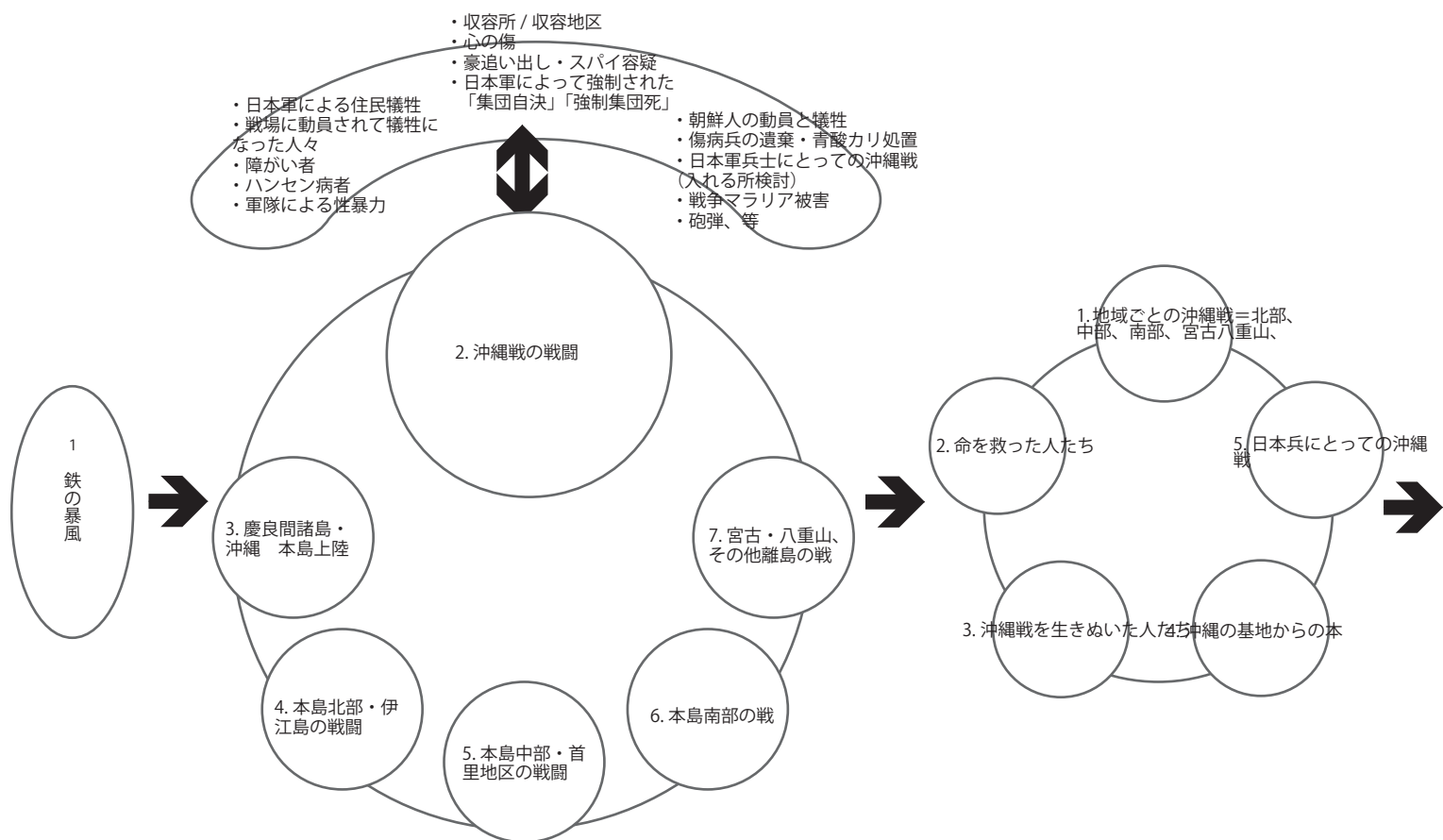
④-2 具体化にあたっての留意点

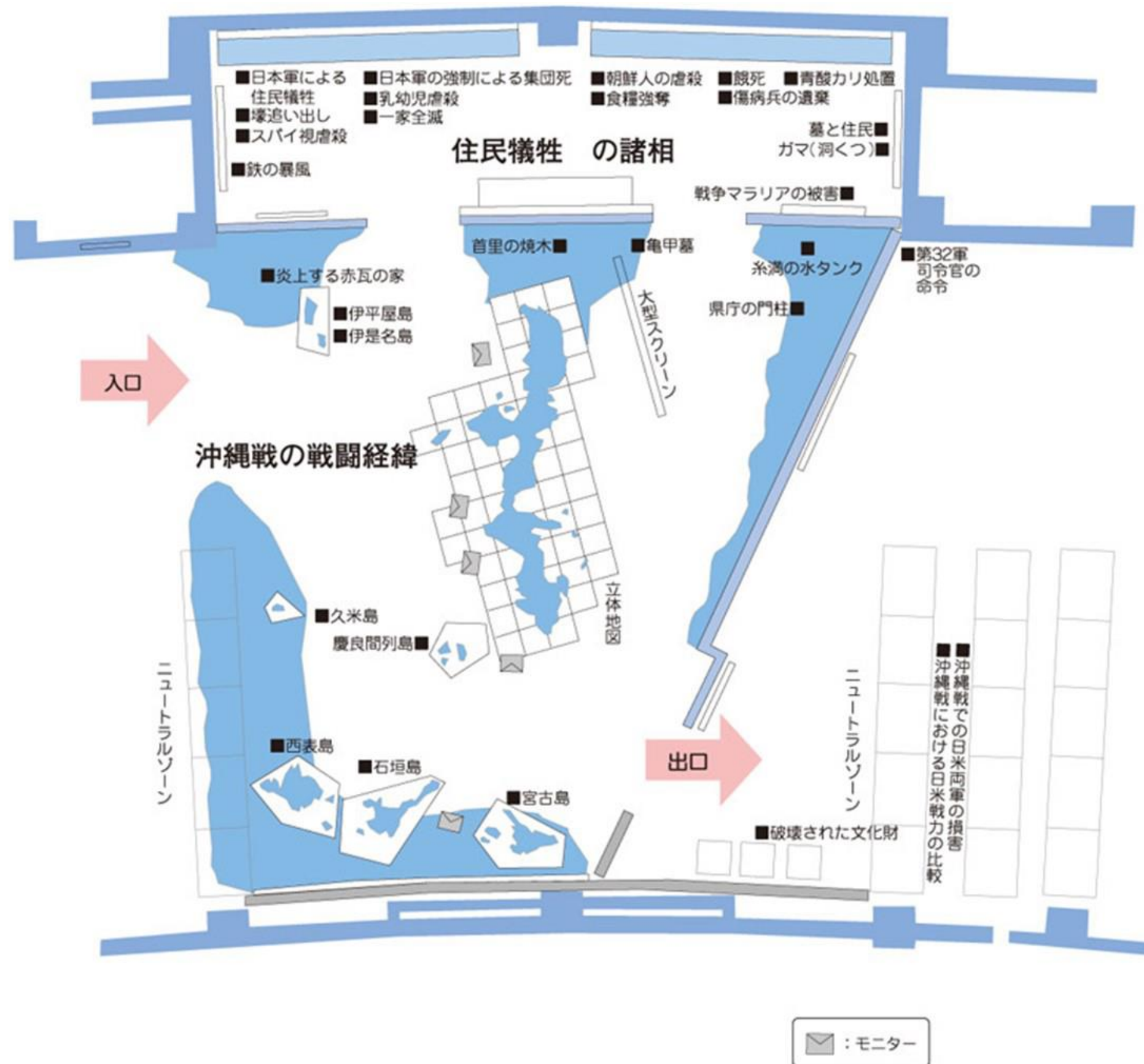
- □□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□。
- □□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□。
- □□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□。

④-3 展示の構成

第2展示室；鉄の暴風

ニュートラルゾーン2



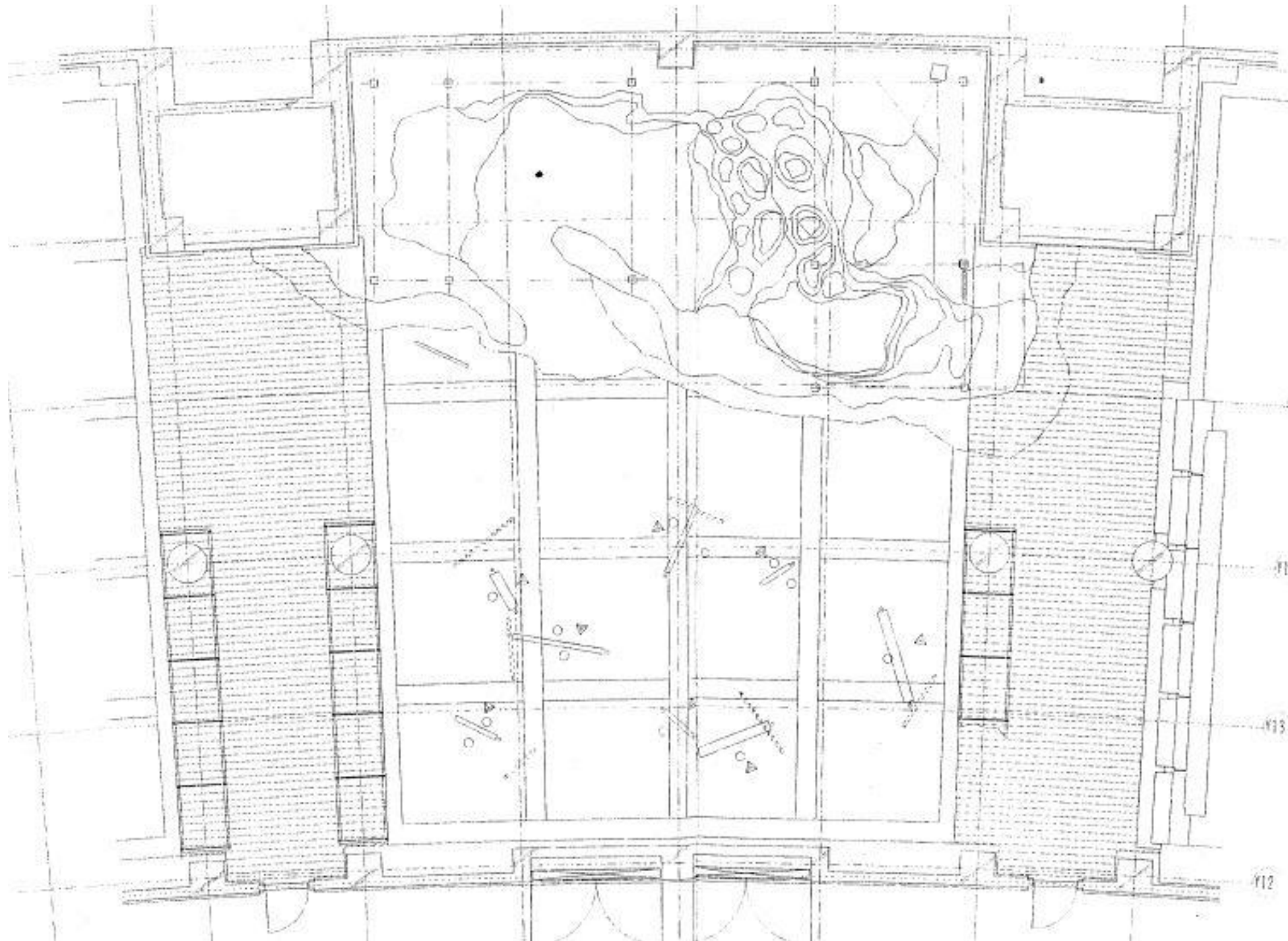


(④-5 主な展示更新のイメージ)

※主な更新展示のイメージについて、基本計画に示せるまで、議論を進めることができたものがあれば項を追加して提示する。

※A4 縦になるかもしれません。

⑤-4 更新後のゾーニングプラン



(⑤-5 主な展示更新のイメージ)

※主な更新展示のイメージについて、
基本計画に示せるまで、議論を進める
ことができたものがあれば
項を追加して提示する。

※A4 縦になるかもしれません。

- 以降、
 - ⑨第4展示室「証言」
 - ⑩第5展示室「太平洋の要石」
- と同様のページ構成で作成。

⑪-1 更新のねらいと方向性

Figure 1. A DNA sequence

A 100-square grid with 4 squares shaded black, representing 4%.

[illegible]

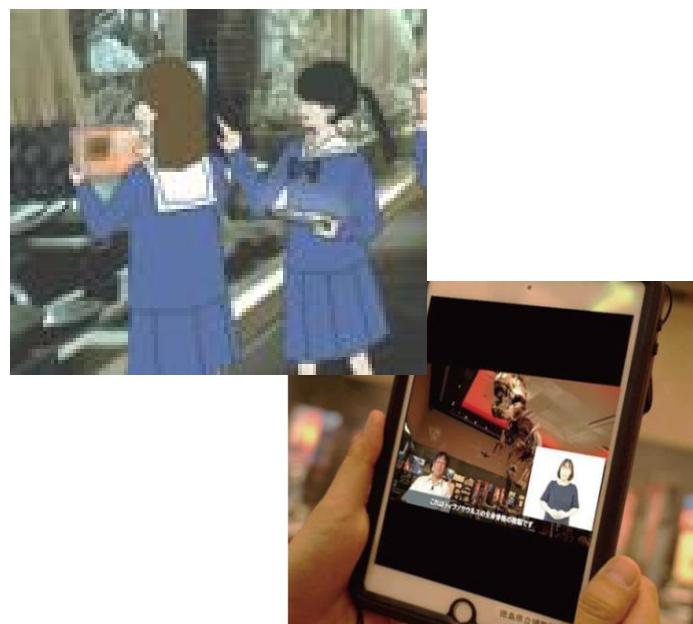
☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☒ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☒ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☒ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☒ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☒ ☐

☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☒ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☒ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☒ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☒ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☒ ☐

☐ ☐ ☐ ☐ ☒ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☒ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☒ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☒ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☒ ☐

☐ ☐ ☐ ☒ .

●グラフィックの基本的な構成について



⑫展示ケースの更新（全エリア共通）

⑫-1 更新のねらいと方向性

ア.□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□
□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□
□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□
□□□■。

イ.□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□
□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□
□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□
□□□■。

ウ.□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□
□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□
□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□
□□□■。

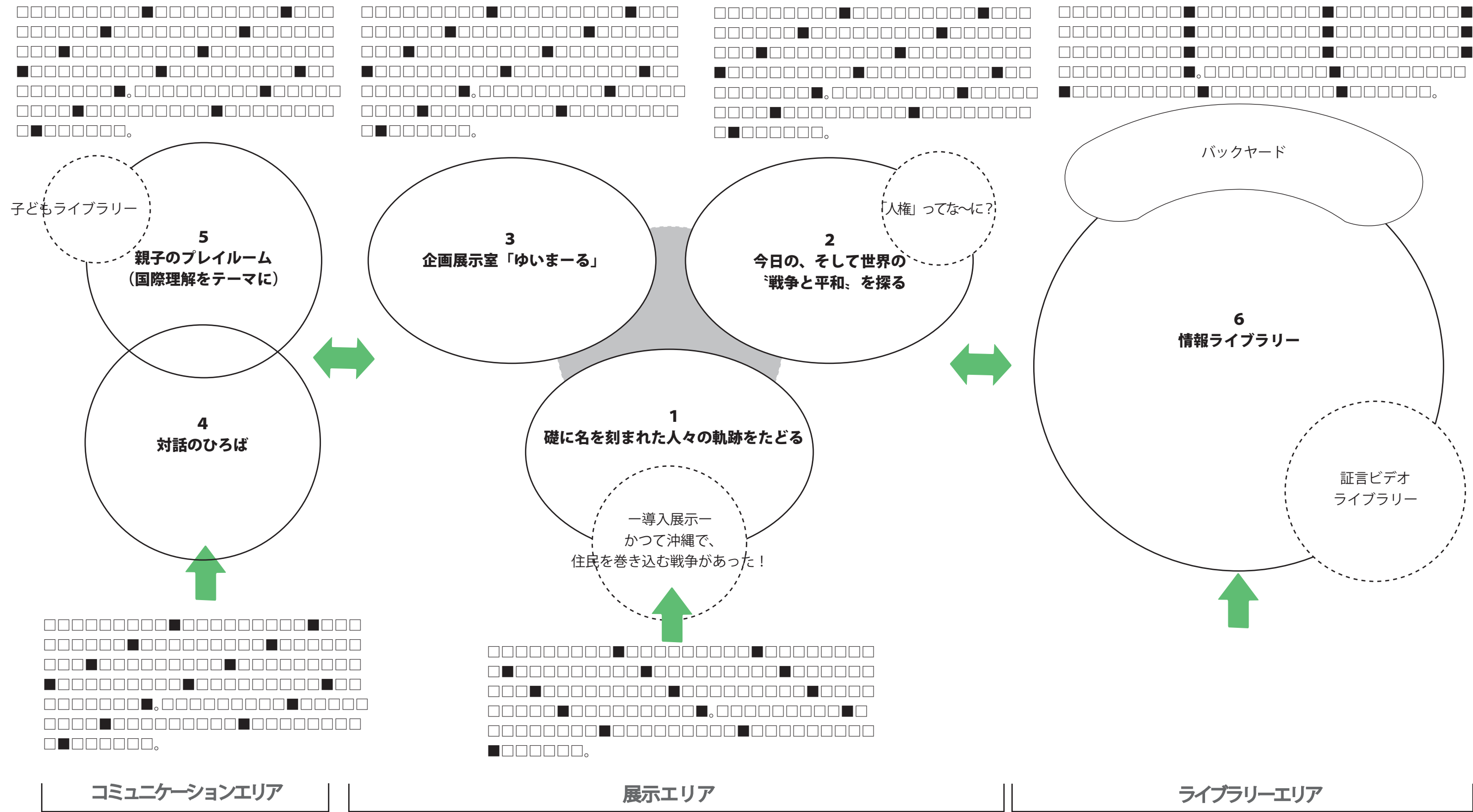
<展開イメージ>

※基本計画に提示できるところまで議論が
すすめば、展開イメージ等を提示。
※そこまでいかなかった場合は、文章のみとする。

(2) 子ども・プロセス展示室（1階）

①展示の全体構成

※あくまでも仮のタイトル、仮の展示構成です。



② ゾーニングイメージ

③「礎に刻まれた人々の軌跡をたどる」の展示内容

③-1 更新の主旨

□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
□□□□□■□□□□□□□□■。□□□□□□□□■□□□□□□□□
□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
□□□■。□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□

■キープラン



③-2 具体化にあたっての留意点

- □□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□。
- □□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□。
- □□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□。

③-3 展示展開イメージ

※基本計画に示せるまで、議論が
すすめば提示。

●以降、（仮タイトルなので、実際は
タイトルが変わることが想定されますが）

④今日のそして世界の戦争と平和を探る

⑤企画展示室「ゆいまーる」

⑥対話のひろば

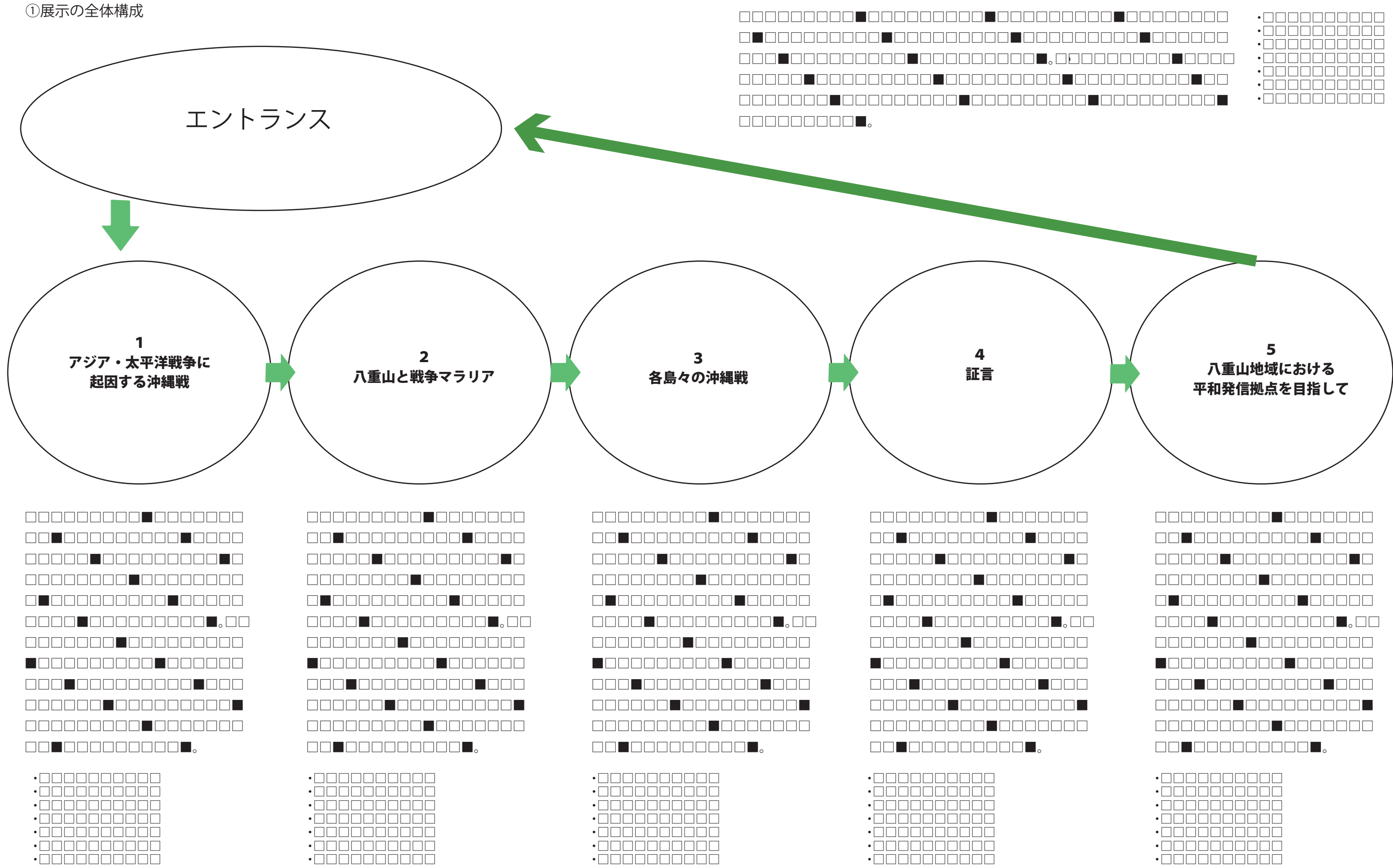
⑦親子のプレイルーム

⑧情報ライブラリー

といよように、各コーナーごとに
同様のページ構成で作成。

※A4 縦になるかもしれません。

①展示の全体構成



②更新後のゾーニング

②1「アジア・太平洋戦争に起因する沖縄戦」コーナーの更新内容

②-1 更新の主旨

[illegible]

■キープラン

②-2 具体化にあたっての留意点

-

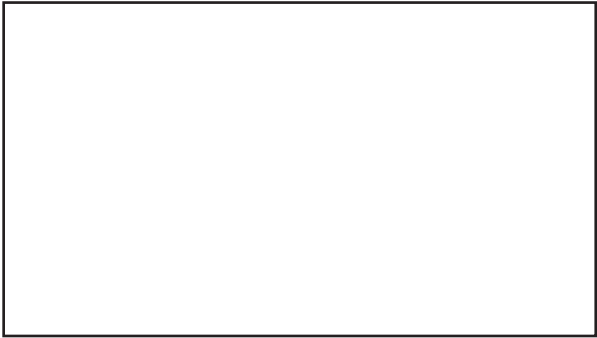
②-3 展示の構成

③ 2 「八重山と戦争マラリア」コーナーの更新内容

③-1 更新の主旨

□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□
□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□
□□□□□■□□□□□□□□■。□□□□□□□□■□□
□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■
□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□
□□□■。□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□
□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□
□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□

■キープラン



③-2 具体化にあたっての留意点

- □□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□。
- □□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□。
- □□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□。

③-3 展示の構成

●以降、(仮タイトルなので、実際は
タイトル等が変わることが想定されますが)

④各島々の沖縄戦

⑤証言

⑥八重山地域における平和発信拠点を目指して

⑦エントランス

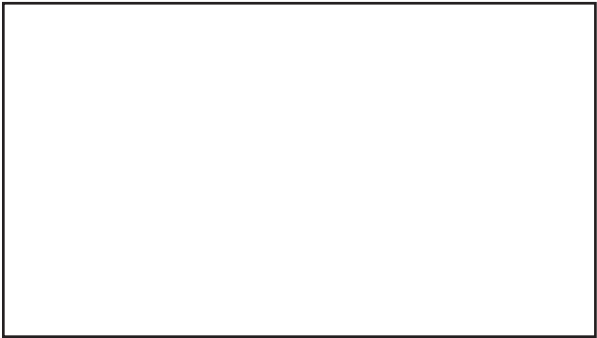
といよように、各コーナーごとに
同様のページ構成で作成。

⑧屋外パネルの更新

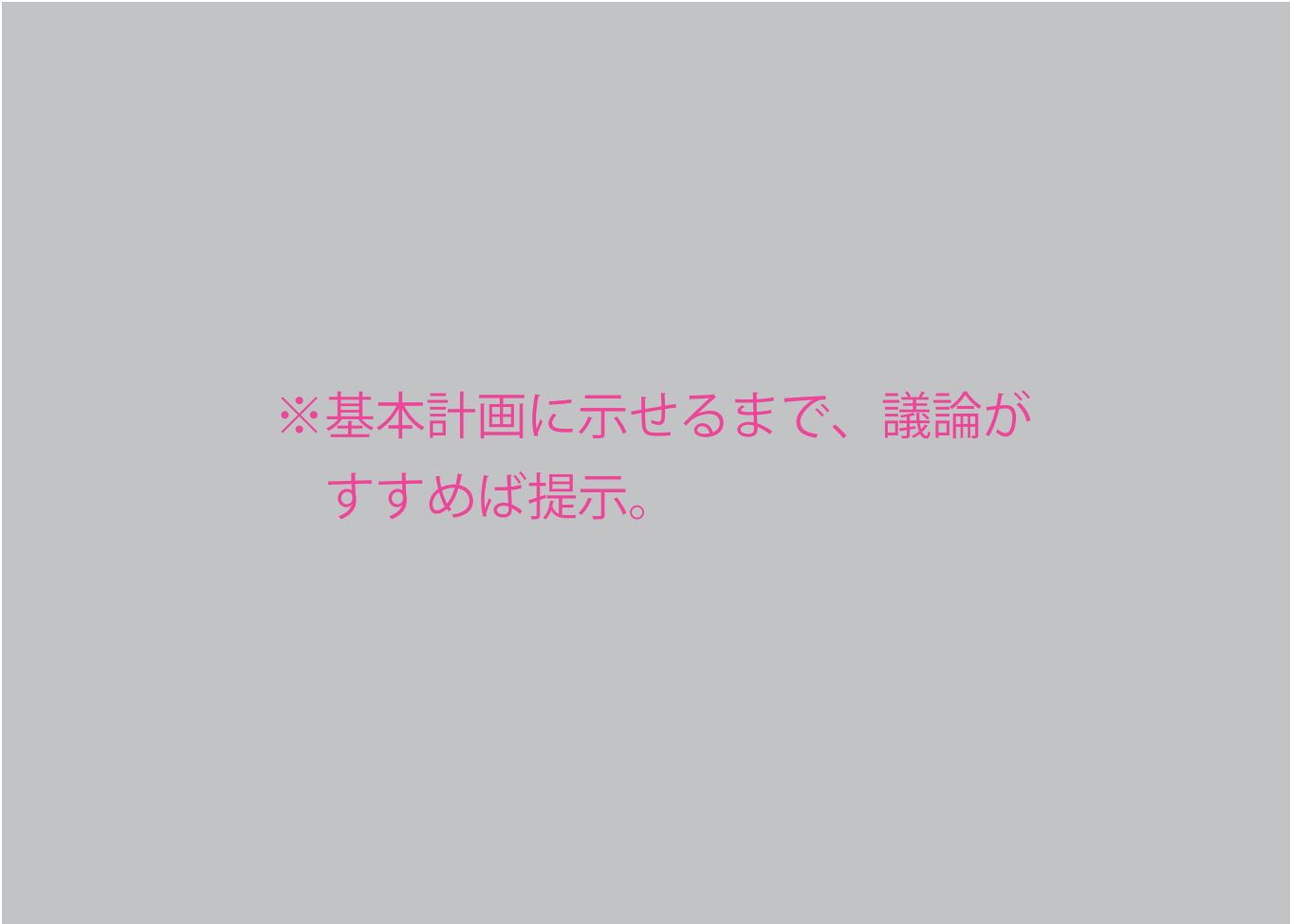
⑧-1 更新のねらいと方向性

□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
□□□□□■□□□□□□□□■。□□□□□□□□■□□□□□□□□
□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■
□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
□□□■。□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□

■キープラン



< 展開イメージ >



※A4 縦になるかもしれません。